京城日報

夕刊

定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五拾錢 (郵送料前金)一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月金參圓七拾錢 ▲郵券代用二割增

廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲欄内一行金壹圓貳拾錢 ▲指定一行金拾錢增 ▲三號活字は二行六號活字は一行は二號活字の一行は五號活字同樣の事

發行兼編輯人 奥田直毅 印刷人 小川三之介

發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社 電話番號 (編輯用三四五番 營業用三三二六番) 振替貯金口座 京城二一四番 六六〇番 三〇〇番

獨帝の列車に爆彈

瑞西國チューリッヒ來電=佛軍飛行家は獨帝の乘れる列車に爆彈を投下し機關手は即死したり(紐育電報)

獨墺軍算を亂して遁走
羅馬尼軍のピソウル奪還

ブカレスト來電=公報に曰く羅馬尼軍はモルダヴィア國境にてピソウルを奪還し獨墺軍は算を亂して遁走しつゝあり羅馬尼軍はウズルリウ驛に於て獨兵九百名を捕虜とし多量の軍事材料を鹵獲せり、獨墺軍はジメイルリウ驛に於て全く敗北し死者一千捕虜四百五十名及び機關砲十六門を遺棄し去れり(紐育電報)

英佛の對希臘王保障

雅典來電=英佛兩國の公使は希臘王に對し希臘の革命は希臘王室の顛覆を圖らんが爲めに非ずして專ら勃牙利の討滅を目的とするものなる事を保障し又希王とドユ、フールネ提督との間にも二十六日相互に好意を披せざる旨を誠實に保障し合へりと解せらるヘスノア氏は語りて曰く苟も反勃牙利運動を阻害せんとするが如き企圖は直ちに聯合軍と希臘との協定を破らんとするものと見做さるべし希臘全國民は希臘の護國に對し最も自由に國民的聲援を援助し得可きものなりと(倫敦電報)

德富氏釜山著

貴族院議員德富猪一郎氏は三十日朝連絡船櫻丸にて著釜午前十時半發列車にて京城へ向へり(釜山特電)

仁川の天長節祝日

天長節祝日の仁川は各官衙學校及び民間等に祝賀式及び各種の催し擧行さる可く其々準備中なりしが官廳側に在りては政務總監の命令に依り恒例なりし府尹の官民招待宴は中止する事となりたるが御當日午前九時より府廳に於て御眞影拜賀式ありたる後同十時迄一般市民の拜賀を許さる可く、尋常高等小學校に在りては午前九時祝賀式を行ひ同十時奥田貞次郎氏より寄附したる校旗の制定式に臨いで聯合體操を催ほし商業專修學校にては祝賀式後定期講習會を開き各職員生徒の研究及び感想等の發表ある由、高等女學校にては既報の如く學藝品展覽會を開催す可く二十九日より學校職員生徒及び郵便局觀測所水道事務所海事出張所、ミシン會社、調理研究會活花師匠等出校し我内外の陳列裝飾に著手し殆んど小家庭博覽會の如き内容の充實したる出品夥多あり拜賀式後一般の參觀に供するを以て非常の盛況を呈す可し其他民間に在りては仁川有志の成る秋芳會は天長祝日より宮町二丁目室家に於て觀菊大會を、各方面に祝賀小集會を催ほす向多しと

普通學校の勅語奉戴

公立昌信、茶洞の兩普通學校に對し御下賜相成りたる勅語謄本は三十日午前十時京城府に於て傳達式を行ひ府尹外各係員侍立の上兩校長に對し傳達し更に學校にては奉戴式を行へり

京總幹部會

三十日午前九時京畿道廳幹部及び警務部幹部は長官室に會同一般事務の連絡衞生業務其他に關し打合を爲す所ありたり

李堈公御著京

李堈公殿下には二十九日午後八時三十分無事東京驛御著直ちに帝國ホテルに投せられたる旨其筋より總督府に通知ありたり

本野大使發期

駐露大使本野一郎子は夫人同伴二名の從者を伴ひ十一月七日露都出發朝鮮を經由して歸朝の途に就く旨其の筋に通知ありたり

軍司令官張宴

秋山軍司令官は三十一日午後一時より在京官民有志の主なる者を官邸に招待天長の佳節祝宴を兼ね觀菊の會を開くことゝなれり

小松翰長辭任

中樞院書記官長兼外事課長小松綠氏は寺内總督の辭任と共に辭職の意ありしも後任其他の都合上今日に至りたるが辭表は愛に提出しあれば後任其の他の問題に於ても一段落を告げたる昨今とて遲くとも今明日中には辭任聽許の御沙汰ある可し

上林忠南長官
十一月一日出發赴任

新任忠淸南道長官上林敬次郎氏は既に田中新任山林課長と事務の引き繼ぎを了へ更に小原前長官との間にも事務引き繼ぎの要あり且つ十一月三日の立太子禮にも付道長官として任地に在る事に決せるより十一月一日午前八時三十分南大門驛發汽車にて發足赴任のことゝなれり

山林課長任命

上林前山林課長の後任は内務部第二課在勤田中卯三氏に決し二十八日附を以て左の通り辭令ありたり

總督府事務官 田中卯三

山林課長を命ず

事務引繼終了

總督府總務局長事務取扱荻田事務官は小松總務局長代理との間に事務の引き繼ぎを了へ三十日より局長室に轉じ又た田中山林課長は三十日上林前課長との間に事務の引繼ぎあり一日より山林課長の椅子に就く可し

調査局の免官
五百六十人

臨時土地調査局に於ては三十日午後測地課に屬する判任官書記技手五百六十人に對し事務終了に付免官の辭令を交付したるが十一月中旬には八百餘人の罷免を行ふべく十二月には又四五百人の免官者を出す由なり

測地員の引揚

臨時土地調査局の測地外業班として平安南北咸鏡南道の國境地方に作業しゐたる監査官書記技手雇約三千名は九月末より事業の終了に伴ひ續々本局に引揚げつゝあるが十二月二十迄に全部本局に歸還すべしと

總長演習陪觀

古海警務總長は大田副官を從へ來月七八日頃京城出發關西驛に赴き陸軍大演習陪觀の筈にて往復約十日間の豫定なりと

中村檢事長歸任

京城覆審法院檢事長中村竹藏氏は管内巡視中の處廿九日夜大田より歸任せり

小原長官著任期

新任農商工部長官小原新三氏は遞信局事務整理並に其の引き繼ぎ等の關係上出發は來月四日以後となる可き旨總督府に通知あり就任は多分六七日の頃となる可し

專賣課長出張

不井專賣課長は村井屬を從へ二十九日朝南大門驛發汽車にて北滿洲より香港方面に向け出發せり、出張の目的は蔘業の視察にして本年末頃歸任の豫定なり

奥技師視察

奥專賣局技師は二十八日夜南大門驛著汽車にて入京京城ホテルに滯在中なるが氏は三十一日廣梁灣に赴き滯在八日に亙りて官鹽田を視察し更に朱安に二泊の上入京十三四日の頃歸東の筈

山形大佐歸任期

滿洲より哈爾賓に亙り狀況視察の爲め出張中なる警務總監部高等警察課長山形憲兵大佐は來る十一月七日朝南大門驛著列車にて歸任

大藤副官赴任期

大藤元帥副官は十一月一日午前八時卅分南大門驛發汽車にて赴任のことゝなれり

德富監督

本社監督德富猪一郎氏は三十日朝釜山上陸午前十時三十分發北行列車に搭乘したるを以て同日午後九時南大門驛到著入京す可し

工業懸賞決定
一等當選者無し

京城商業會議所は朝鮮に於ける産業の奬勵と下級無職業者救濟の趣旨よりして家庭工業奬勵の計畫を立て其意見の答案に對し一等百圓二等三十圓三等二十圓の三階級に區別して懸賞募集を行ひたるに六月三十日の締切迄に答案を送附し來れる者三十名の多數に達し迄り會議所は役員會總會等を開會したる上同案の審査を中央試驗所長豐永博士、商工課長靑木戒三の兩氏に囑託するに至り豐永博士先第一著に審査を行ひ續て靑木氏再審査を加へ此程漸く決定して答案全部は會議所關工業部委員長の手元に送附し來り目下保留中なり審査に就て豐永博士及び靑木商工課長等の意見を求めたれども今尙會議所の委員會を經由せざれば入選者確定せずとのことなるが兩審査委員の手にて採點したる點數の最高に達し居れる者は京城南山町金融組合内神宮新三郎氏のパテンレース、慶尙北道淸道郡邑内金鳳鎭氏の麻鞋に對する答案にして其者は點數少なし何れ最後の決定は來る十一月二日午後一時より開會の工業部會及び六日開會の筈なる役員會等の協議を經たる上なれども大體に於て兩審査委員の審査通り確定するものと見て差支なかるべし而して等級は既報せし如く一等賞に該當するもの無きを以て二等及び三等賞金を授與するに至るべし

棉布賣止繼續
更に十一月十日迄

三井物産京城支店にては既報の如く二十五日より二十九日迄五日間東洋紡績製品三葉印粗布の賣止めを續け三十日解除の筈なりしも朝鮮在荷粗布の荷は鮮少ならざると三井物産引受各地よりの注文現數は尙ほ東洋紡績製品能力を遠く超過し加ふるに大阪相場は殊騰又殊騰を續け到底目下の朝鮮市價と出合はざるを以て三井は在鮮品の調節並に紡績會社製品力に餘裕を生ぜしむる爲め更に十一月十日迄十二日間の賣止めを斷行する事となりしが從つて斯界の前途は頗る含みにて各地の取次販賣店の如き現に昨今頗る強く建値以上に賣捌きつゝありと

智島定期寄港

朝鮮郵船會社木浦仁川航路就航船の智島寄港は從來臨時的なりしも十月二十八日より一箇月三回宛定期に寄港する事となりたり

醫術開業試驗終了

豫て擧行中なりし朝鮮醫術開業試驗第三部は廿八日を以て終りを告げ之を以て學說試驗全部終了せり右成績は十一月一日發表さるべし

外人も日本の忍耐に同情
鄭家屯事件=支那側の交渉遷延

鄭家屯事件は談判開始以來二箇月を經て僅かに五回の正式會議を重ねたるのみ然も問題の輕易なるに拘らず支那側に於ては遷延し居る有樣にて若し此の儘に交渉を繼續せば何時終了するや圖り難く在支邦人の當惑を感じ居る事とて世上にて何等かの開展策を望む事切なるものあり外人も最近支那の對外態度に對し不滿足の聲高く寧ろ日本の忍耐に同情を表し居れり(北京特電)

孫辭職問題と國務員
大總統に謁見辨法具申

段總理は二十七日國務會議にて一文を各總長に示せり右は孫洪伊氏の辭職に關し總統は三日間に解決を約せり若し此期を過ぎ猶孫の辭職罷免を見ざれば内閣は總辭職を爲すべしと云ふにあり各國務員は右は激烈に過ぐるとし文書の提出を見合せ一同總統府に赴き總統に謁見して辨法を具申せり(北京特電)

東海相互生命九月の優績

農商務省保險課の調査に依れば九月中保險契約高一千萬圓以上の成績を擧げたる生命保險會社は全國四十有社中僅に左の如しと云ふ

東海	二、五〇〇件	一、九五七、八〇〇圓
帝國	二、三三三件	一、八五七、二〇〇圓
日本	二、二三八件	一、八二八、四七〇圓
明治	一、六〇四件	一、四八八、九〇〇圓

東海相互生命が上記第一位を占めたるは本年七月松方正義公の五男松方五郎氏が社長兼專務に就任せし以來全責任を擔ふて内外細大の事務に當り加ふるに一般業務の刷新改善努力奮鬪の然らしむる所なりと而して同社は本年中新案を施行し三萬圓以上を收めたる優秀代理店に對しては旅費を支給して東京本社に招待し盛なる慰勞を施すと云ふ因に各社共去月以來久しく振はざりし生命保險界は前途洋々たる形勢なりと

安東縣

▲吉田領事送別會 安東領事吉田茂氏近日歸朝に付二十九日午前十一時より鎭江山滿鐵公園に於て官民合同送別會を開催せり當日公園入口には曾つて例なき大仕掛の設備にて午前十一時爆竹を相圖に一同著席中野民團議長發起者を代表して送別の辭を述べ畢るや直ちに開宴次いで吉田領事の鄭重なる謝辭あり畢つて堀内民團理事の寄附ありたるに對し謝意を陳べ且つ自作に係る送別の詩二絶の披露あり數十名の校書絶わず酒間を斡旋し頗る盛會なりしが當日の來會者は日支官民無慮三百餘名に達せり▲松村中佐一行 公主嶺駐屯騎兵第二十一聯隊長松村中佐一行九名は二十七日夕刻來安元寶館に一泊の上九連城附近の戰場を視察し二十八日夜行列車にて北行せり

平壤

▲商議員會頭招宴 平壤商業會議所評議員一同は二十八日午後七時より大橋會頭、林副會頭、金副會頭を主賓として吉松道二部長及び西鮮朝新本社各支局長並に板倉益太郎氏を陪賓として招待し盛宴を張れり席上常務員奥田延之助氏評議員一同を代表して開會の辭を述べ大橋會頭主賓側を代表して謝辭を述べ尙吉松二部長板倉益太郎氏西鮮日報支局監督古莊仁太郎氏等祝辭並に希望演說を爲し主客歡を盡して十時頃散會せり

開城

▲御影拜戴式 開城公立小學校にては廿六日皇后陛下の御眞影下賜せられたるを以て即日拜戴式を擧行し多數の官民參列せり▲中學生來城 京城中學校生徒及び教員養成所生徒合計二百數十名廿八日來開名所古跡を採り即日歸校せり▲公普運動會 第一公立普通學校にては去る廿八日東大門外成均館に於て秋季大運動會を開き非常の盛況なりき

元山

▲魚市場復歸 元山に虎疫發生以來之れが豫防の爲め元山水産會社が閉鎖したる魚市場は虎疫の終熄に伴れ危險ならざるに至れるを以て十月二十九日より再び從來の通り開場する事となれり▲長箭最終航路 元山長箭間連絡航路は既定の如く既に金剛山遊覽期も經過したるより朝郵に於ては本月末を以て一先づ廢航せしむべく去る二十八日元山より長箭に向ひたる隱城丸を本年に於ける最終の航海となせり▲永興附近現地戰術 步兵第七十四聯隊は來る十一月四日より永興附近に於て所屬各部隊將校の現地戰術を擧行する筈なり▲咸南産繭販賣高 咸南道廳に在りては本道養蠶業促進の一手段として産繭の販路を創し各地方金融組合に命じ共同販賣の法を取らしめつゝありしが本年管下各金融組合に於て取扱ひたる共同販賣産繭高は四百九十五石價額一萬八千二百八十九圓を示し更に個人販賣に屬するもの六百十七石價額二萬二千三百九十八圓に達せり

仁川

▲實行委員上京 共益社特別運賃問題に關し仁川商業會議所より稻田副會頭、河野竹之助、和田書記長、穀物協會より松永辻川の五實行委員二十九日午前九時上京鐵道局並に總督府訪問の上有志大會決議に基く特別運賃撤廢の件を請願すべしと▲米穀檢査員認可 仁川穀物協議會にては嚢に檢査員二名の增員を申請中なりしが二十九日認可の辭令交附ありたり▲會議所評議員會 仁川商業會議所にては三十日午後七時より樓上に於て評議員會を召集し寺内前總督に感謝の意を表す可き方法及び立太子式御當日の奉祝等に就き協議すべしと▲金光教大祭執行 仁川寺町金光教會所にては十一月一日午後二時より祖大祭を執行したる後說教ある由▲執務時間變更 十一月一日より翌年二月末日迄各官衙共執務時間を午前九時三十分より午後四時迄と變更せり▲九切受渡著手 九月切定期取込高は一萬石にして三十日午後三時迄に渡屆を行ひ來月一日取引所側の渡調をなし二日より受渡に著手すべく此れが渡方は天日精米所にして受方は三巴及び辻川精米所荒木仲買等にして内荒木は六千石殘四千石は或は解合すべしとの說高し

淸州

▲中村典獄來往 公州監獄中村典獄は淸州分監事務視察のため二十六日夕柳原監守長を從へ來淸本町明治館に投宿中の處二十九日歸任したり▲道長官歸任 忠北各郡巡視中なりし柳忠北道長官は二十八日夕歸任したり▲秋季種痘 淸州學校組合にては來る十一月二日組合事務所に於て在住内地人秋季種痘接種を爲す筈なり▲淸州神社祭典 來月三日の立太子式當日太神宮に於ては祝祭典を擧行することゝなれり▲軍隊來泊 步兵第七十九聯隊第二大隊利川守備隊將校以下約百名は大田より演習の途二十六日鎭川邑に一泊し官民の歡迎を受け翌廿七日早朝出發す▲櫻井警務部長歸任 去る廿一日出發報恩地方巡閲中なりし櫻井忠北警務部長は三十日歸任したり▲地價騰貴 最近淸州市街地附近の地價昂騰を示しつゝありて既に鳥居院有力者は大々的買收を企てつゝありと

光州

▲軍人分會射擊會 光州在鄕軍人會分會にては來月五日を期して分會員射擊會を開始する由にて目下各係を設け準備中なりと▲棉花出廻依然不振 本道各共同販賣所の棉花出廻りは依然遲々として不振を極め居れるが來月上旬下旬に掛け持なしき出廻りを見るに至るべしと▲小學校運動會 光州小學校にては二十九日秋季大運動會を擧行し運動六十二種百五十餘回に亙り外に守備隊兵士の小隊教練式は劍術、銃劍術等ありて宮木長官其他來賓百五十餘名父兄及び一般觀覽者亦千數百名に上りて頗る盛會

人事消息

▲慶松勝左衛門氏(工學博士) 三十日朝入京天眞樓へ
▲京城中學校職員及び五年生八十七名 平壤安東撫順奉天方面に修學旅行中の處二十九日朝歸校
▲朝倉外茂鐵氏(辯護士) 談合事件の爲廿四日以來大邱へ出張中の處卅日朝歸京
▲白井水城氏(開城郵便所長?) 三十日入京
▲岡田三郎氏(東京建物支店長) 十一月二日朝奉天へ(赴任の筈)
▲矢澤近次郎氏(東洋生命支店長) 二十九日江原道より歸京
▲古城管堂氏(京城銀行重役) 同上
▲古城梅溪氏(滿洲殖産會社重役) 二十九日夜滿洲より歸京
▲西崎鶴太郎氏(鎭南浦商業會議所會頭) 三十一日出發鎭南浦へ
▲岡正矣氏(京畿道事務官) 昨今日輕快四五日の内に離床すべし
▲吉田憲兵副官 卅日朝龍仁へ出發

□轉任に際して 鳥兎
猿山を出づる尻毛や秋寒し
菊の京へ(まかりつん出て猿のつら

□鳥兎子を迎ふ 虎耳
君迎ふ案山子もものゝ一つ
御殊勝に寒念佛の人數かな 鳥堂

一 內地塊炭參百拾六噸

此入札保證金ハ各自入札金高ノ百分ノ十以上

入札者ハ當學校組合區域内ニ於テ國稅府稅當學校組合費年額三拾圓以上納ムル者ニシテ二ヶ年以上斯業ニ從事スル者ニ限ル

就テハ供給請負希望ノ者ハ當學校組合ニ就キ入札心得書、契約書案、仕樣書及見本等ノ上十一月四日午前十一時限リ當學校組合ニ入札スヘシ即時開札ノ上契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充之ヲ擔任ス

大正五年十月卅日 京城學校組合

最も改良米を要する必需具

完全採殼機

專賣特許第二六四三八號 一名佐藤式改良唐箕

石、砂、碎米、未熟米、稗、籾、身無、摺糠等を一度に撰別す 詳細は說明書入用の方は呈す

長は機械的を應用し

▲地方分權且特約店募集 大阪西區北堀江川町 千橋電車停留前 福佐勘藏商店 電話西一〇八六 振替大阪一九〇一四

解雇廣告

藤井藤作

右の者解雇致し候自今當部に關係無之候

大正五年十月廿七日 小林鑛業本部(京城長電六五五番)

土地建物 入札即賣廣告

某家所有左記不動産至急賣却方信託せられ候に付き來十一月五日午前十時現場大和町二丁目八十五番地長島岳次郎氏方にて競爭入札により即賣仕候條住宅及借家經營地として理想的の箇所に有之候條御一覽の上當日は進んで御買求被成下度右急告候也

京城太平通二丁目七八番地 多田不動産信託所

京城不動産即賣會(電話二二二一番)

(一號)京城大和町二丁目八十五番地(李王職官舍前) 垈 五百十一坪 一、同地上 一、木造瓦葺平家一棟 此建坪三十七坪七合四勺 外水道、堀井戸、瓦斯電燈、浴場、疊建具附 庭園樹木現存の儘
(二號)同十五番地(第一銀行社宅前) 田(住宅向垈)二百九十四坪
(三號)同百六番地(遞信局官舍道、橋の手前左側角) 田(住宅向垈)三百十四坪
(四號)同三丁目四十番地(老人亭川の左岸、遞信局官舍西側高地) 垈 百二十八坪
(五號)本町四丁目七十八番地(本町通約十間南入) 田(住宅向垈)二百七十六坪
(六號)大和町三丁目十七番地(梅之家東隣四ッ角) 田(住宅商店向垈)百六十三坪
(七號)同十八番地(同上道の東南の角地) 田(住宅商店向垈)六百二十五坪
以上七筆(地圖無料進呈仕候)

投資!!投資!!土地
市内土地の即賣會

結核專門 古賀病院 佐賀縣基里村

洪水は脚下まで

澎湃たる大勢を見よ＝櫻井教授の歐米視察土産

其の他濠洲から輸送された何十萬といふ家兎の肉の氷詰めを見ても大戰亂の一端が覗はれるのであるが現に

▽露西亞 の如きは一週間の中で土曜日曜の他は獸肉を食ふことが許されぬ有樣、砂糖もバタも恐ろしく不廉く、お蔭で諾威、瑞典の如きも物價が十倍以上になりともこれではやりきれぬとこぼして居る其の他巴里も倫敦もツエッペリンの襲來を恐れて

▽夜間は 一寸先きも見わぬ暗闇であるが就中巴里の如きは戰線の近い所は十六七里に過ぎず毎日遠雷の如き大砲の音響が聞ねて居る有樣、現時の歐洲列强は何れも國家存亡を賭して戰つて居るのであるわれ〳〵は既に日淸、日露の大戰を經たけれども

▽戰塲が 餘り遠かつた爲め現時の歐洲各國が味ふ如き氣分は經驗して居らぬ、併し昨今の歐洲を見ると實に總てのことが戰爭中心で血眼になつて居るのである、次に私の感じたことは歐洲の交戰國が何れも今から戰後の經濟戰に備へて居ることである、現に英國に於ては開戰以來牛津大學に化學

▽研究所 を設け最近に至つてやう〳〵設備の竣成を見たのであるが此所には實に世界の最新式になる器械を以て世界最高の智識を聚め獨逸の化學工業に打ち勝たうといふ意氣込である、現に私が參觀した時にも大學教授や技師の人々は

▽熱心に 研究中であつたがあれを見ると科學の遲れた日本などでは一刻も猶豫して居る塲合で無いと痛切に思つたことである、次にきた近回の戰爭によつて知られたことでは獨逸が戰前からあらゆる手段を以て經濟的に世界

▽各國に 喰ひ込むだことである、私が最初英領加奈太のバンクーバーに赴いた時土地の景色を寫した繪葉書には『獨逸製』の文字があつた英國に行けばマンチエスターにミツドランドホテルといふのがあるが此所も以前は獨逸人の經營であつて昨今では

▽英人の 手に移つたから惡くなつたといふ評判伊太利に行くと一年に遊覽客から數千萬圓の金をとるフローレンス邊のホテルは皆獨人の經營で伊太利は經濟上の關係から獨逸に對して開戰し能はぬ有樣である、次いで露西亞も亦然りであるが恁麼工合に從來

▽獨逸は 世界中に著々其の經濟上の地歩を占め寸毫の遺利をも粗末にして居らぬばかりでなく總て商賣までが軍隊式で其の外國にある領事と云はず商人と云はず新聞記者と云はず總てが水も漏らさぬ連絡をとつて一絲亂れざる計畫を立て〻居る、現に米國には一千萬人以上の獨人があつて

▽大統領 の選擧さへも左右する勢ひであるから戰後の經濟戰に於ける獨逸も實に恐るべき强敵であるわが國の如きも僅かの戰爭成金で滿足せず大に戰後に備へなければお隣の支那などでは米國の爲めに壓倒されるであらう、現に

▽紐育の ゼネラル、エヂュケーション、ウオードに於ては支那に於ける米人經營の學校から職員の人名が一隻の衝立のやうなものに記されてあつたがこれを見ても米人の支那に於ける活動振りが現はれるのである日本人は自分の國を樹てる上にも東洋

▽文明を 扶殖する上にも此の際確固たる決心を要する譯である新日本の青年はぐず〳〵する秋ではない。

國を擧りて

天長節祝日及立太子式當日の地方の奉祝

◇全市裝飾と菊花品評會＝平壤

十一月三日立太子式奉祝の爲め平壤に於ては國旗球燈彩旗を以て市內を裝飾し夜間は各所にアーク燈を設けて美觀を添ふべく亦各町にては其れ〴〵催し物ありて就中目拔きの場所とも云ふべき大和町通は卅一日より三日迄菊花の品評會を開催する由なるが其方法は各戶店頭陳列棚に菊を陳列し其他種々趣興を凝らせる飾り物をなすべしと又町內の出入口には大綠門を建設し國旗を交叉し町內四辻には六百燭のイルミネーションを點じ夜間は大和町會員七八十名大同舘に於て祝宴を張る筈南門町は大和町に劣らぬ催しをなすべく有志より〳〵協議中

□女學校の展覽會 平壤女子高等普通學校に於ては生徒成績品展覽會を開催し生徒の裁縫手藝造花刺繡其の他の成績品を陳列し三日午前十時より一般の觀覽に供し特に生徒の裁縫手藝品等は實費を以て希望者に頒つ由尙ほ翌四日には午後零時三十分より父兄母姉會を兼ね第六回學藝會を開くべしと

◇合同奉祝會＝安東縣

天長節祝日三十一日午前九時より領事館に於て御眞影奉拜式あり同十一時安東神社秋季大祭執行畢つて神社境內に於て官民合同の奉祝會を擧行し委員長吉田領事の奉祝文朗讀に次いで委員長の音頭にて一同天皇陛下萬歲を三唱したる後祝宴に移る筈にて此日朝來數十發の煙火を打揚ぐ可しと

◇大提灯行列＝木浦

立太子式當日は各區共思ひ〳〵に趣向を凝らし大提灯、小提灯、萬燈、雪洞、造花、萬國旗などにて美々しく市中を裝飾すべく府に於ては樞要の場所數箇所を選び特に大綠門を建設し夜はイルミネーションを點じて美觀を添ふべく松島神社にては橋本府尹以下官民の參列を俟つて午前八時半より九時迄壽無窮、國運隆昌の祈念祭を執行する由又當日正午より公會堂に於て日鮮官民合同の奉祝會を行ひ夜間は大提灯行列を擧行する由

◇盛んな餘興＝光州

立太子式當日全南光州の奉祝に代表者會合の結果各區より醵金し舞臺を造り屋臺を出し各町內を裝飾し最も大仕掛けに餘興を演ずる事に決定委員二十名を選定して一切の準備を委囑したり

論戰熱氣迸る

檢事の辯駁

談合事件第四日午後及第五日午前

京釜線改良工事請負談合事件控訴公判に於ける

■花井辯護士 の辯論は二十九日午前に引續き午後零時四十五分より開廷、花井氏は午前中の辯論を續く曰く、談合＝自ら金を出し合意の上に受收る何の不可あらん談合は國家に損害を與ふると云ふ、然らず國は豫定價格を標準とせる故國が損害を受けたりと云ふ事出來ず本件の事實は入札前に於ける談合金授受に過ぎず入札せしとて當局が落札せしめざる可らずとの義務なきが故に一審判決の如く決して契約書の騙取に非ず第一審の判決書を見るに談合金を授受したとあれど詐欺の證據は一もなしとて益々細に入り微を穿ち一審判決の批評及び談合を嫉むるに行政法なる途あるを明かにし無罪を主張し又檢事に質す所ありて三時四十分辯論を了る十分休憩の後

■杉村檢事は 起ちて花井、小川、鵜澤、勝本辯護士の辯論に對し總括的に反駁を試み諸辯護士の辯論が未だ本職の意見を飜さしむるに至らざるを極說し小川、花井、鵜澤の諸氏交々起ちて再三反駁し五時半再び休憩更に朝倉、安住の二氏種々の引例をなし本件は徹頭徹尾隨意契約にして何等刑法上の問題たらざる事を辯じ午後八時半閉廷したり三十日は午前九時十分より開廷公判を續行す、齋藤裁判長開廷を宣するを俟ち直に

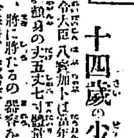
■大井辯護士 の辯論に入る、曰く先づ本件起訴の動機に就いて見るに被害者の告訴に據らずして單に匿名の投書に始まれるといふ點に就いては裁判官の注意を望むと言ひ更に本件の請負金額は正當なり、檢事は請負人間に於いて談合金の分配を爲すは差支へなきもその談合金の授受を以て騙取といふ事になると言はれしも本件の請負金額を精細に査すれば過當とは存せられず何等の價値無きものとなれるに非ずや亦法律上より言ふも談合それ自身は不法に非ず更に亦道德上よりいふも敢へて責むべき事無し唯談合によつて殊更に工事の請負金額を上下したるが如き場合にあつてこそ始めて不法と言ひ得べきなり然るに本件の請負金額は不當と認むべき事實なし故に無罪の判決ありたしとて無罪を力說し尙ほ傭んに第一審の判決に對して批評を試み最後に檢事は鐵道局の證人に對し僞證の疑ひあるが如き口吻を洩らさるゝも斯くの如きは行政官吏を侮辱せるも甚だしきものにして注意を望むと大見得を切つて席に復するや

■岡田辯護士 代つて起つ、曰く本件は會計法規の性質、鐵道當局者の執務振り請負業者の實際の行爲等より見るに本件自身は隨意契約にして決して競爭指名入札に非ず、唯實際は隨意契約なるも鐵道局の慣例に從がひてその形式を競爭入札に採れるに過ぎず、その形のみを見て罪を論ずるは不當と言はざるべからず例へば茲に男裝せる女ありとせん然かしてその女が男の働きを爲したりとて女は矢張り女なるを奈何せん即ち形式が競爭入札なりとて實際に於いて隨意契約なれば之れを論ずる場合に於いても隨意契約として論ずるを以て當然とす果して然らば本件は無罪なりと主張し大井辯護士と同じく第一審判決の不當を鳴らし更に語を改めて

■岡田金之祐 に對する檢事の控訴を辯駁して曰く、檢事は談合金の分配を爲すは差支へ無しと言はれしが岡田の如きはその談合金の分配に與かり居らざれば所謂檢事の談合金の尻拭ひを政府に爲さしめし事實無き點より岡田に對しても第一審の判決通り無罪の宣告あらん事を望むと述べて復席す、時に十一時五十分にして休憩午後一時より引續き開廷せり（大邱電話）

八露貝加卜秘史（三）

十四歲の少年に印銘せる一家亂離の悲み



車扶大淸林將軍吉林司令大臣八露加卜は當年四十一才頭髮半白體格魁偉身の丈五尺七寸體重二十五貫堂々たる偉丈夫、將に將たるの器なるを備ふ彼が自から語りたる前半生の閱歷談に由れば八は廢南、內蒙古五十一旗の內賓圖旗の札薩克の家柄に生れたり札薩克とは旗の頭領にて古來

■會長の家筋 より北京政府が任命するを例として居る旗の編制は會長、管內の男子十八歲以上六十五歲以下の者を以て兵丁と爲し管旗章京、副章京、佐領、參領等の將校あり札薩克は其の上に在りて殺生與奪の大權を有し各旗獨立してたと三年に一回盟長の下に會盟して軍備、遊防、刑罰及び兵丁名冊の檢閱を盟長又は北京政府の派遣する

■會盟大臣に 受ける丈で有る札薩克は勅命を以て任ぜられ蒙古の官名にして札薩克とは政所の義であつて一旗の事務を總理し札薩克を授けられざれば王公の家と雖も旗務に干與する事を得ない、故に蒙古に於ては最も札薩克を貴重なる地位として居る八露加卜は賓圖旗の札薩克の家に生れ此の尊貴なる家柄を擔ひし乍ら雖し其れは單に名のみにして八の生れたる賓圖旗は奉天府に近かく古來漢人の

■漢人の移住 開墾する者年々に增加し愚蒙にして正直なる旗下の蒙古人は年毎に其の牧塲を奪はれ家畜を强掠せられ訴へれども利有つと敗れ五人去り十人去り八の生れて物心の付きし頃には旗中亦蒙人の跡を留めず傲慢なる漢人の横行跋扈に任せ札薩克の家も名ばかり其の權力を行ふ由もなかりきそれのみならず賓圖旗は吉林省の管內に編入せらるゝに至りこれさへ既に無力の札薩克家に取つて忍ぶべからざる屈辱であり悲憤で有つた然るに八が十四の秋、奉天省新民府の

■官兵暴動を 起し其の一隊は哈拉套に在る八寶加卜の家を掠奪し祖母兩親及び弟妹三人迄兇惡なる官兵の毒手に斃れ家財は悉く强奪せられ八寶加卜のみ下僕に負ばれて從かに身を以て迯れ彼は從僕の勸むるまゝに漢文を習ひ北京官話を修め北京に出でて仕官せんと志したるも如何にしてか一家の讐敵たる漢人に報復の一擊を與へずしては死すとも冥目すべからずと遂に住馴れし彩武縣を出でて蒙古

■吹き荒さむ 砂漠地の地に入りたるは彼が十九の秋であつた、一意復讎を念とした塲も曠茫たる漠地に入り死せるが如き靜寂なる砂漠が時に濛々たる砂塵を捲きて天に沖し或は生ける如く許多大小の河川を呑みて浸濡せざる或は烈寒骨を撤く寒氣に遭ひ炎熱毛髮を赤灼せしむる夏を迎へ、晝の極暑は忽ち夜の極寒に變ずる氣象の激變を見て自然の力の無限大なるに驚異し一度奈曼のウジキンソムに入りて喇嘛僧となりしが幾何もなく

■馬賊の襲擊 に遭ひ萬死に一生を得たるより前志を繼いで復讎の一獨り其の手段として馬賊に投ず遂に漠北の野を指して奔りを去りたり折りから日露戰爭は滿洲の野に戰ふに當り八寶加卜は日本軍の義氣に感めると共に其の軍隊の規律的なるを深く欣仰し某將軍に會見を求め更に日本軍隊の事情に通じ次天以南營口に至る間に於て彼は悅んで

■日本軍の爲 めに働き日本人の間に多くの知遇を得たり此の時彼の部下は一千五百悉く蒙古馬賊にして標悍を以て稱せられしと云ふ

鼠は海上二哩の波を渡る

仁川で鼠疫豫防の爲夜間荷役禁止

仁川警察署に於ては昨今ペスト流行地たる四日市經由の貨物に對し嚴重に取締を爲すと共に既に仁川倉庫業者並に鮮業者に對し鼠の驅除と一般の淸潔法を訓示せしが普通鼠は海上二哩を越ゑて來り且つまた荷役の際艀に移りて上陸することもあれば此の際四日市經由の貨物に對し一層取締を嚴にする必要ありとし這回同地方よりの荷物に對しては積入積卸一際警官出張の上嚴重に監視し且つまた三十日以後は夜間の荷役を絕對に禁止する旨署長より訓令せり

●二階から眞逆樣

京城本町三丁目土木請負業河野某方同居大分縣北海部郡大在村生れの大工姫野源藏（三八）はマラリヤに罹り二十六日より日之出町多々見醫院に入院加療中三十日午前二時半頃二階の病室にて附添人の隙を窺ひ東側の硝子窓を押し開きて飛び出し地上約十尺位の窓口より大地に墜落して頭部を强打して腦震盪を起し人事不省に陷りたる騷ぎに家人が驚き應急手當を施し一方急報に接し本町警察署より係員出張檢視せしが生命危篤なりと同人は稍精神に異狀ありたりと言へば其れが爲め多分自殺を企てしものならんと

●死なうと思つて女醫の寢室へ

忍び込んで金を盜み最後の遊興

京城西四軒町武野某方同居群馬縣多野郡藤岡町生れの丹澱事小林猿三（一九）は本年五月中窃盜罪に依り東京地方裁判所にて懲役二年（五年間執行猶豫）の判決を受けたるが實父は鄉里に於て郵便局長縣會議員の名譽職に從事し居れば一家及び鄉里地方のものに對し面目なしとて直ちに五月三十日前記武野が豫てより知己なるを便りて渡鮮入京し同人の世話にて旭町一丁目の某店に

▲店員として 梱込みしも永く續かず次は南大門通三丁目某自轉車屋に奉公中新町通ひを始め巴樓の君子、有名樓の千代子、泉樓のぼんた等に馴染みを重ねて遂に主人の金五十餘圓を使ひ込みて拂箱となり居るも方なく武野の內に厄介になり居る今更歸鄉する顏も無く借々過去の非行を悔悟し寧ろ自殺して申譯の爲相果てんと本月十六日午前四時頃豫て

▲家中の勝手 を熟知し居れる明治町二丁目女醫川﨑醫院に忍び込み寢室にて藥口を窃取し在中の合鍵を以て藥室の抽斗より毒藥を窃み出さんとしたるも果さず依つて現金二十餘圓及びお召女羽織一枚を窃取して逃走し之を携へて最後の遊興と思ひ馴染娼妓なる泉樓のぼんたの許に流連して遊興し居れる所を本町警察署の刑事に取押へられ京城地方法院に送られて公判に附せられ死に損ねたる猿三は三十日懲役一年の判決を受けたり

讀者文藝（一等には五十錢の商品券を呈す）

▽冠付『只ぶら〳〵』と探ひ出し

○口惜しがり只ぶら〳〵と探ひ出し（一等） 仁川本町四 孤舟

▲正氣づき……… 木浦 菊次郎

▲逃げそこれ……… 湖東

▲初舞臺……… 竹宮

▲見ね前に……… 成歡 錦絡生

▲居直られ……… 龍山 トンチン坊

▲退されれ……… 龍山 不破東步生

▲處女氣の……… 龍山 松本生

▲くざかれて……… 龍山 關本小草子

▲胸に釘……… 京城 片山生

▲探見して……… 洪州 一水

●僞判で詐欺

……を生じ惡心を起し平……實業と云ふ印判屋に……せしめ七月以來大和……一人樓外へ參り箇所にて費消し盡したる（價格百八十圓）の注文を受け所有……行衛不明なり……告訴せし……金光

▲課題募集規程

讀者文藝 ▲仲秋の詞 〆切三十日 發表一日 ▲川柳 〆切三十一日 發表二日

▲應募規程 ▲用紙は端書又は四六判の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事 ▲賞品は一週間後 ▲種類の異る毎に用紙を更ふ

天氣 曇後驟雨後晴 ▲十月卅一日

馥郁たる芳香を有する純良化粧用水石鹸 技師 工學士 藤野太治郎

◎ミツワ水石鹸

肌膚の荒れぬ化粧用水石鹸

（現品縮寫圖）

定價 金三拾五錢 大壜 金五拾錢

ミツワ石鹸が品質純良にして皮膚毛髮の洗滌に適し、衛生美容の資料となるが如く、◎ミツワ水石鹸も亦優良なる品質を具備せる芳香化粧料なり、從來の普通水石鹸には刺戟甚しく皮膚毛髮を傷ふもの多きに反し、この新發賣の

◎ミツワ水石鹸

は優秀なる原料と馥郁たる芳香料とを以て製造せられ、洗滌に際して適量を振出すことを得、他人の使用せる後にも些の不快を感せず、殊に此◎ミツワ水石鹸は皮脂の分泌夥多にして而かも皮膚粗糙なる本邦人の化粧用石鹸として、皮膚毛髮の洗滌に適する理想的適品なり。

椿の實を特に內地に取寄せて、皮膜を去り、冷壓法を以て搾取したる、新鮮純良にして、毛髮の衛生に適し、色艶を麗しくする……

◎ミツワ椿油

小壜入 定價 金二十錢 大壜入 一合入 金五十五錢 五合入 金二圓十五錢

ミツワ椿油は新鮮なる椿の實を以て製造したるものにして、從來の製造法を改良し、冷壓法を用ひ强力なる水壓機にて、些少の熱をも加へずに、搾取せる純良なる椿油なり。他の普通の所謂椿油と異り毫も苦味を含まず、透明無臭にして、理想的の毛髮衛生料なり、常に此ミツワ椿油を用ゆれば毛髮の發育を助け雲脂の過剩を防ぎ、色艶を艷美ならしめて漆黑たらしめ、裂毛折毛等の恐を去り、赤毛白毛に成り易き憂を除き、臭氣を發することなく、漆黑を尊ぶ本邦人の毛髮に最も適する理想的完全なる毛髮油なり。

ミツワ石鹸 ミツワ家庭藥 規那鐵葡萄酒 肝油ドロップス 御園化粧品

發賣元 東京市日本橋區橘町四丁目 藥劑 賣藥品 石鹸 香料品 小間物問屋

◎丸見屋商店

電話浪花四四八・四四九・四五〇番 電信略號◎ミヤ 振替東京七一〇〇番

夫人令嬢達の金剛山見物

九龍淵の瀧の下でお辨當＝三島鮮銀理事夫人談

秋の金剛山は滿山の楓葉が燃え出でんばかり美しうございます、盛りは十月の初めから中頃までと申しますが只今でも九龍淵の谷は

▽綿のやうな 眺めでございます、萬物相の紅葉は溪谷が廣いだけに早や谷川に亂れ散つて居りますが九龍淵のは實に何とも喩へやうもございません、殊に一丁臺のあたり夕日に映ねた楓葉の色は非常な美しさでございます、妾共の一行は國分長官夫人渡邊高等法院長夫人並に令嬢、長田夫人の婦人伴れ五人と敎會の井口牧師、堀田副牧師のお二人を合せ

▽都合七人の 暢氣な旅でございました金剛山の入口長箭の港は恰度油繪に見る瑞西あたりの湖畔の景色そのまゝで温井里と申す温泉も非常に風景のよい所です、九龍淵の途中では先日中村農學士の死なれた場所も通りましたが途中は險しい場所がなか／＼多くお伴れがなければとても婦人の身ではむつかしいと思ひます、瀧の下では一同持參の辨當を開き

▽評判の瀑布 を見物しましたがモツ谷間の風は顫へるやうでございました二十八日は朝から温井里を出發して海金剛に赴き少々浪のあるにも拘らず舟で海岸の景色を眺めました、折から碧い波間のあたりには無數の海鳥の群が飛んで居ましたが振り顧れば金剛山の連峰は屏風の如く衛立つて繪にも筆にも及ばぬ程の壯觀と思ひました、歸途は長箭まで平坦な道に

▽馬車を傭ひ ましたが路傍の稻は刈りとられて廣い田の畔には野菊の花が咲き亂れて居ました、またあのあたりは只今つるもどき、りんだうなどが澤山見られましたが妾は澤山の壓し花をつくつて探勝の土產といたしました、猶往きには元山附近の釋王寺を見物しましたが二門のあたり道も漸に散る楓葉の色は何よりもうれしく思はれました

▽這回の旅行 は往復共に一週間、其の間一時間の無駄な時間もなく見物をつゞけましたとは主として天候の良かつたことにもよりますが中にも國分長官夫人はなか／＼のお達者で平素滅多に外出なき方とは思はれぬ程でございました、馬車屋は『あなた方が今年の山のお終客だ』と申しましたが或は左右かも知れませぬ

秋は小鳥料理

◇とり丸やき（味噌漬を添ふ） 獲物を自慢して機嫌よく歸つて來る主人公を更に滿足させるのは料理を甘くする奥樣の御手際である 鶉、鴨なぞの小鳥を丸燒きにするには先づ毛を拔つて新聞紙を燃やし其上に鳥を翳して毛燒を爲し微温湯に浸て靜に指先でこするやうにして洗う尤も小鳥は總じて

◇皮が柔かで破れ易いから手荒な取扱ひをしては可けない洗つたら乾いた布巾で押へるやうにして水氣を拭ひ去り頸筋から背骨の左右何れへでも庖刀を通し尾から胃の處まで背開きにしてそつくり臓腑を拔き取る此處で注意を要するのは小鳥に限つて頭も肢も其儘に附けて置かねばいけないのである

◇此處で又不潔な處のないやうに念を入れて注意し水氣を拔き取る是れで下拵へが出來たそこで鹹味噌五十匁味淋一合醤油五勺酒三四勺を加へ指先で味噌を潰すやうにしてベタ／＼に爲し今日漬たら翌日は食べても好いが何うかと云へば二三日經た方が味が宜い

◇燒くときには味噌を好く拭き取つて炭火をカン／＼眞紅に熾こし遠火でゆつくりと燒くとパリ／＼して頭も肢も殘さず食べられるさて是れは餘計なことながら其味噌は棄てゝは勿體ないから薩摩汁にでも遣つて總菜の一つにするが宜い 又

◇麴漬にするには麴一枚を酒醤油半々にしてヒタ／＼に溶き其中に漬けるので燒き方は味噌漬と同じ此後の麴は一寸遣ひ道が分らないが今日漬けて翌日出して仕舞ふやうな場合には魚肉でも試みに漬けて見るのも宜い

門内に棄て兒

京城黄金町一丁目崔善永方の門内に二十七日午後八時頃朝鮮人女兒を遺棄したるものあり嬰兒には『五年舊正月初一日生』と記したる紙片を添へありたり

◎徘徊中捕はる 茨城縣稻敷郡大宮村生れ千葉衛（三三）は去月二十六日午後港町荻原二郎方に忍び入り羅紗縞マント一枚價格十八圓のもの及び現金を窃取したるを平壤署の刑事に探知され二十四日市中徘徊中を取押へらる

出世の少年

◆其一◆ 兩親の涙

米藏の家は姓を谷と言つて、我家と言ふ程でも無かつたが、以前は相當な資產家で、祖父の代には庄屋を勤めた事のある村での口きゝであつたが、何うした譯か此の祖父は、少なからぬ負債を殘して逝つた爲めに、家運は次第に傾いて、若し此の儘で居たならば、山林田畑は勿論一家のものが

□永年雨露 を凌いで來た其の家さへも、終には人手に渡して了はなければならない程の悲境に陷つて居たのであつた米藏が初めて家計の苦しいのを知つたのは、未だ九歳か十歳の無邪氣な少年時代であつたが、毎晩兩親が之れを苦にして、行燈の影に小聲に語り合つては啜り泣くのを見て、小供心にも沁み／＼と借金の恐しさと、世の中の冷酷な事を感じた、そして小學校を卒業してから十六歳になる今日迄父を勵まし母を慰め、七人の弟や妹の面倒を見ながら、或る時は村役場の雇員となり、又或る時は

□小學校の 准教員と成つたりして働きながらも家計を助けて來たのであつた、處が或る日、突然神戸の伯父が訪れて來て、米藏を岡本家（伯父の姓）の嗣子にし度いから、是非養子にくれろと懇望した。兩親は一も二もなく跳ね付けた。伯父は普通では迚も米藏を養子に出さうもないので、終に一策を立て、『我れでは責任を以て米藏に商業學校を卒業させ、谷家の負債も償却させるから、其の上で岡本家を相續さす事にしてくれ』と申し込んだ。それでも父は仲々承知しなかつた、母も『こんな優しい

□親孝行な 子を手離すのはいやだ』と言つて應じなかつた、併し米藏は考へた『今の樣な有樣では負債の償却は愚か、谷家は將來終に破滅だ、左樣成つたが最後、一家十人の者は其の日から路頭に迷はなければならない、そこで若し伯父さんの家へ養子に行くとしたら什麼なるだらふ……』米藏は言ひ知れぬ强い力がムラ／＼と胸に湧いて來て、暗かつた頭腦が急に明るくなつた樣に覺へた『さうだ、僕は伯父さんの家へ養子に行かう』

□此瞬間に 米藏は斯う決心した、そして兩親に向つて熱心に、一家將來の利害やら自分の責任やらを話し、男子が責任を果す爲めには、一切の情實を捨てゝ了はなければならない事を説いて、只管兩親に許可を願つた。其の結果兩親も終に我を折つて、米藏を伯父岡本家に養子に遣る事になつた。

法廷で產氣付く

京城府堅洞居住の金逸山（二六）は京畿道龍仁郡器興面舊川里崔今達の妻朴七今（二〇）と大正四年陰九月一日より本年七月迄自宅にて相通じ朴七今は姙娠するに至りたるが此程に至り本夫の發見する所となり兩名は告訴せられ本月十八日京城地方法院に於て公判開廷の上金逸山は笞九十の處分となれり然るに朴七今も同日入廷せんと看守に伴はれ法廷の入口に差蒐りたる際俄かに腹痛を始め分娩せんとする模樣となりたるより入廷を見合はせ直ちに知己なる齋金洞金順定方に連れ行きて臥床せしめしが是れが爲め數日間判決を延期するに至れりと

神社とお寺と教會

○東本願寺（南山町）一日午後七時より信友賀歩船紗の講義あり

○西本願寺（若草町）三十一日午後二時より三日數松前總長の説教あり猶は一日午後八時より舞行會ありて同師の説教あり

○金光教南大門教會（南米倉町）二日午後八時三日午前十時より高橋、田池兩氏の説教あり

○金光教京城教會（永樂町）三十一日及び十一月一日兩日午後八時より日本人信徒に對し一日午後一時より鮮人信徒に對し開教宗教あり

商況

東京株式特電

前場寄付　大引

日本郵船、京城電氣、同新、東京瓦斯、東株新、東新第一、東新第二、東株第二、鐘紡新 ［各欄 ｜］

公債直取引

二十八日値段（前日との比較）

甲號五分利公債　九八、七〇

深川在米特電

二十八日現在高　朝鮮米　内地米　［illegible］

東京期米特電

二十八日前場　十二月限　寄付　高値　安値　止め　一五、四〇　一五、六〇　一五、六〇

大阪期米特電

三十日前場　一五、三〇　一五、六〇　止め

下關期米特電

三十日前場　新甫　四十錢乃至五十錢上鞘唱へ

雜報

［illegible］

內地製粉の其後

小麥粉の市中仲間手合が日々五六萬袋を下らざる盛況なるは既報の如く ［illegible］

綿絲現物一圓高

［illegible］

綿布愈々頑强

［illegible］

唱へ二圓方上値

［illegible］

圓の協定百七十三

［illegible］

片栗粉更に暴騰

［illegible］

綿絲奔騰す

本品は賣物不出の結果共收穫は前年より約四分の一を減じたる上に商工界の好景氣と輸出口の好況とは益々市價の昂騰を促がすに至り ［illegible］

北鮮產は遂に八雲月印十圓五十錢

［illegible］

牛皮は不味

［illegible］

暴騰約二圓方

［illegible］

精白弗々出合ふ

［illegible］

蜜柑の初入荷

［illegible］

生果類好氣配

［illegible］

下關相場

［illegible］

京城正米

［illegible］

京城雜穀

［illegible］

南大門の廻穀

［illegible］

仁川現物市場

［illegible］

釜山市場

［illegible］

仁川期米

［illegible］

三十日前場　大阪天候曇

天前寄十五圓六十錢　一錢と一昨止より五錢高の入電二節六十三錢と更に新高値の移り

市場零閒

［illegible］

納會平穩

［illegible］

籾の高氣配

［illegible］

前場の手振

［illegible］

四丁と擴大　遂に三百七十

［illegible］

能く賣る

［illegible］

能く買ふ

［illegible］

依然動かず

［illegible］

當夏以來買方の一時的買瀬切　反動に外

［illegible］

本月の高低

［illegible］

十三錢と昂騰　一時十二圓二

十二錢と低落　十一圓六

下値と生値　一錢

新甫內氣配

大阪の四五十錢大上鞘

無鞘見當

大阪其他の鞘關係等に或は多少の變動あらん

仁川米豆取引所

三十日の十二月限

前場：寄付　高値　安値　出來高　［illegible］

平均値段：［illegible］

賣買取組高：［illegible］

青物市場

［illegible］

小賣白米

現金賣　一等白米　一升　十五錢

〈演藝案內〉

黄金館　電話一八五二（階上）二六三七（階下）　天然色活動寫眞株式會社直營　［illegible］

見落す勿れ黄金館の　第一黒箱は本日限　明日は天長節祝日！

甲武信ヶ嶽帝大學生の慘死　耳尙ほ新しき悲慘の事實！

第二黒箱　第四、五、六編　天保義賊鼠小僧　南郷公利、丸山南甫、薄田半曉説明

和泉屋治郎吉　全四卷

大正館　櫻井町　電話八七三　［illegible］

有樂館　本町一丁目　電話二六六　日本活動寫眞株式會社特約　［illegible］

御成座　御成町　電話二九一　第九回變題　［illegible］

浪花館　明治町　電話二六〇　［illegible］

月刊商報發行送呈

釜山本町三　近藤商店　電話八六七　振替三五八

日鮮雜貨　鍋釜金物　卸問屋

於共進會　銀牌受領　改良唐箕　石臼　千石通　萬石　製造販賣　朝鮮勸農商會

食料品雜貨　乾物　砂糖　麥粉　烟草　罐詰

板硝子輸出入商　鮮人向洋反物入荷仕候　釜山本町　村上元治郎

青竹　釜山港入船　島本材木店

雜貨御徒ハ問屋の中の問屋　明治屋本店

味の素　朝鮮特約店　洋酒罐詰　商　あづまや商店　釜山辨天町

內外雜貨卸問屋　近江屋支店　釜山本町二丁目　電話八〇二番

ダイヤ印燒酎　カーバイド　アルコール　福榮商會　釜山

釜山　着名商店

豫報　［illegible］

一週間以內に到着發見通告者には五十錢書籍券を呈す（但何書何號と明記に限る）

宮本武藏

第二百二回

桃川如燕口演 浪上義三郎速記

雪山は其の座敷に通つて屏風を見るが感心いたして 雪『フーン能く描いた 専『然うでせう、道歴に黒くするには惡藏子の五人も雇つて塗らせなければ恁う黒くは叶かない、他人の物だと思つて思ひ切て黒くした 雪『イヤ御亭主、此の山は何で描いたのだか判るか 専『ヘエ山でげすかな、私は馬の背中だと思つた 雪『一筆描きの山である、しかも筆で描いたのではない、何か布で描いたのであらう、如何にも勇氣を含で能く描いてある、俺に描けと云つても恁うは描けない 専『ヘエー 雪『此の半腹に四阿が描いてあるが、此の内に二人の老人が碁を圍んで居る、白石が勝ちか黒石の方が勝ちかお前に判るか 専『先生冗談云つては叶けません、畫に描いてあるものが勝負が判るものですか 雪『イヤ然うでない、黒石の方の老人は面體に笑ひを催ふして居るから勝と見ゐる、白石の方の老人は面體に憂を生じて居るから負けと見ゐる、此の邊を描き分けるといふは縁いことで 専『ヘエー 雪『それから下の流れに沿つて牛が二頭描いてあるが前の牛には勞れが無い、後の牛には些かでも背に粗朶を附けて居るから足に勞れが見ゐる、此の邊を描き分けるといふは大した技倆である、到底俺には描けない、此の雪山なぞは遠く及ぶ處にあらず』と落款の處へ目を注けると二天としてあるから雪山は 雪『ハテナ、二天と云へば當小笠原の藩士にして當時肥後國熊本の細川越中守に仕へた宮本武藏正名と云ふ二刀流の劍術の名人、人も知る巌流島にて西國の麒麟と云はれたる佐々木剛道斎岸柳を討取つた、方である、何と亭主此の屏風を描いた者は年齢面體格好は何う云ふお方である 専『左樣でございます、年齢は四十四五にもお成りなさいませうか眼の涼亮かな鼻の隆い中肉中丈のお方で、今一人のお伴れの方はもう八十歳位にお成りなさる老人でございまして 雪『其の老人は知らぬが四十四五のお方と云ふからは正しく宮本先生に相違ない 専『ヘエー、宮本と云へば誰知らぬ者はございません、二刀流の劍者で 雪『左樣、其の宮本先生がお描きなすつた屏風であるから大事にして置くが宜しい、萬一お前が氣に叶らんと云ふならば俺が讓り受けても宜しい 専『まア待つて下さい、成程見れば見るほど結好な畫だ、此の山は筆で描いたのではない手拭か何か布で描いたのだ、山が生きて居ります、貴下には描けますまい 雪『然う 専『此の半腹の四阿に居ります二人の老人が碁を圍んで居りますのが白が勝だか黒が勝だかお前さんには判るまいが、黒の方は笑つて居るから勝で白の方は泣面をして居るから負けだ 雪『何だ白だの黒だのと犬が喧嘩でも爲やアしまいし 専『此の二頭の牛は前の牛に樂があつて後の牛には勞れがある、其の譯如何となれば 雪『何を云つて居なさる、それは俺が今云つたばかりだ 専『成程此の屏風は讓る處ではございません、私共の寳物でございます、もう貴下には用がございませんからお歸りなすつて、然し折角お出になつたのだからまアお茶でも喫つてお歸りなさいまし、雪山も驚いたが此の先生も斯樣に見分ける處を以て見れば却々豪い人でございます、偖て此の大塚屋専右衛門が後に身代が傾いて此の屏風を三百兩にて出羽國酒田の本間久四郎方へ賣却いたしました、最も本間方には結好な屏風が數双あると云ひますが、其の内でも宮本の描いた山水の屏風は名代でございます此方は曉雲二天の兩人夜の明けない内に福島の大塚屋専右衛門方を立出で、若し捉つてはならんとドン〳〵急いで道つて參つた 曉『嘸ぞ二天跡で彼の屏風を見たら亭主が驚くであらうな 二『左樣勝を潰しませう 曉『イヤ其の顏を見て遣りたいな』と話しをしながら白石の城下にかゝつて參ります。

◉教員検定受験者の福音 深柳博士を會長として教員検定受驗者の爲め多年講義録を發行せる東京牛込津久戸町の日本師範學會にては十月の新學期より從來の講義録を改版し尚ほ新に專准及び師範入學受驗者のため簡易部講義を發行せり簡易部は僅に六箇月卒業なれば明年の受驗者も今の内入會せば十分間に合ふべし會則は何人にも無代贈呈すと

運勢

十一月一日九星 舊十月六日壬寅 本命四綠 閉 定 先負

▲四綠● 愛き議論有る日新事見合北方は吉婚禮 ▲五黄● 喜昧の事有る日新事手控舊事は吉新規取引は用心の事▲六白● 不進不退の日なれども新事件日の方吉務事 農藝け妨なし▲七赤● 詐はれ迷惑の事有る日新事 手控舊事は吉一切のせわ事を禁す▲八白● ふと災にかゝる事有る日 注意 新事手控舊の事は吉▲九紫● 拾すよき日 轉居旅行入門名弘家作求職婚禮 金融營業等皆吉▲一白● 利運の日轉居 行 商入學名弘造船移租 伸造業を始る等 萬吉▲二黒● 一寸へまに來る事有る日新事手控 舊事は吉一切のかけ事を禁す▲三碧● 智術移居の日轉居旅行 金談移租造船開校病院の事を開る等皆吉

十一月二日九星 舊十月七日 癸卯 本命三碧 東取 佛滅

▲三碧● 不意面目の事有る日謹んで新事見合すべし ▲四綠● 順潮の日轉居入門 金談名弘建築求職婚禮等皆吉 物に勝の日▲五黄● ゆがみたる說有る日新事手控舊事は吉 ▲六白● 不察の事有る日新事手控舊事は吉 介諸伸衛せぬがよし▲七赤● 骨折損の事多き日新事手控舊事 農藝 妨なし▲八白● 自薬な事有る日謹んで新事手控舊事は吉 女子は行儀を守らるべし▲九紫● 大吉利の日轉居旅行入學名弘金談求職婚禮開業等皆吉▲一白● めでたき日轉居 旅行出 酒名 弘金談求職婚禮開業移轉等皆吉▲二黒● 何となく不快の事有る日新事手控 舊事は吉尚散財を防ぐべし

千里一碧の仁丹日和!!

活動の秋は來れり

仁丹は心身を爽快ならしめ疲勞を去り胃腸を强健にし能く惡疫を豫防す

されば外出、旅行、遠足、銃獵に

キツト仁丹御用意遊ばせ

仁丹主効

●旅行遠足の時……始終愉快
●訪問散歩の時……精神爽快
●煙草の代用……頗る適當
●事務を執る時……精力旺盛
●疲勞倦怠の時……元氣回復

藥價 五錢 十錢 廿五錢 五十錢

金言

嶮山に登るは當初緩歩するを要す (シエクスピア)

オモシロイ

笑話

さすがは

奢り大名或る日鷹野に出で給ひしが獵て百姓に農作かまひなしと觸れたれば百姓は常の如く働き居けるを殿樣つく〴〵御覽なされて「われ是までの奢りは只前非を悔ゆるなり、よく〳〵百姓が困窮するかして今日も一服の煙草を二人して喫むで居た」

(寶文會發兌「漫畫と落語のごばさけ」より轉載)

内科 小兒科 京城日出小學校前 多々見醫院 入院隨意 電話九四〇番

朝鮮獵友會長三島太郎君校閲 同 會員 吉村 脊牧君著

銃獵の趣味 (定價四十錢 郵税二錢)

今や狩獵の好季節となれり狩獵者として必讀缺く可らざるものは本書也巻中覧むる所銃獵の趣味と修養、銃器、彈藥、射撃、出獵、附屬品、獵犬に關して詳説餘蘊なし附録として狩獵規則其他狩獵の好場所を指示し獵者の案内者たり是非一本を購して携帶するを忘る可ざる也

—●— 京城太平通 京城日報代理部 (振替京城三〇〇番)

資本金 貳千百五拾萬圓
積立金 九百六拾五萬圓

株式會社 第一銀行京城支店 京城本町二丁目(振替貯金京城一一番)

頭取 佐々木勇之助

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候
内地朝鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候

資本金 五百萬圓 頭取 安田善三郎

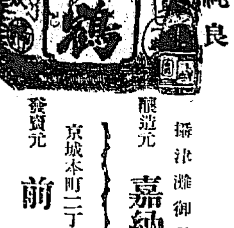
株式會社 百三十銀行京城支店 京城本町壹丁目 電話長五八番 振替貯金京城一九四番

銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

眼科 内科 小兒科 京城黄金町三丁目赤門通(電話二四四三番) 入院隨意

本田醫院 院長 本田建義

大日本優等清酒 ハクツル



品質純良 衛生無害

攝津灘御影町 醸造元 嘉納合名會社

京城本町三丁目廿番地 發賣元 前田酒店 電話一三七番 振替口座四二五番

京城日報
第二版
三十一日朝刊 夕刊と合せて八頁

聖壽萬歲

本日は叡聖文武なる今上天皇陛下の、第三十八回御生誕祝日にして、大正の御代に入りてより、第五回目の天長節祝日に當り、又御即位御大典後、第一回目の天長節祝日也。伏して惟るに 天皇陛下に於かせられては聖體倍々御健かに在しまし、大政の總攬、臣民の愛撫、範を列聖に取り、軌を明治大帝に一にせさせ給ふ。殊に竹の園生の、御榮えいと極みなく、星辰燿々、洵に日月と相並ぶに似たり。

伏して惟るに 天皇陛下、天壤無窮の、寶祚を踐み給ひ、明治大帝の丕業を、繼承あらせられてより、光烈實に六合に洽く、德風慈雨、既に霑被せざる所なく、國土盡く聖露に滋ひ、國權月に伸び、强邦盟を重ね、善隣諸に依る。西歐の天は、猶ほ未だ、戰雲漠々たるも、東海浪靜にして、萬民皆、誠歡誠喜、今日の佳辰を奉祝す。洵に是れ聖世の餘澤にして、國民の幸福、天恩之より大なるものあらんや。吾人幸にして、此の隆盛に際會す、豈忠忱の誠意を披瀝し、大に欣び、且つ大に祝せざるを得むや。唯誠歡誠喜、遙かに寶祚の無窮、聖壽の萬歲を奉唱す。

天壤無窮

聖上陛下の御日常
玉體益々御健全に渡らせ給ふ

三十一日の天長節祝日に際し 天皇陛下の御近狀如何にと承まはるに 陛下には至つて御壯健に在し大正元年御踐祚以來今日迄約五年間殆んど御病床に在らせられたる事なく殊に一昨年秋頃より

玉體益々御肥滿

に渡らせられ從つて御體量最著しく加はらせられ恐れ多き次第ながら十七貫に達せられ給ふと拜聞す最近某老臣の謹話に 今上陛下は年を經させ給ふに從ひ玉顏次第に 先帝に似させ給ひ御聲迄が先帝御同樣に拜聽さるゝなど何んとなく 先帝を偲び奉り難有く感ずる次第なり、尙ほ陛下の御起床は春夏秋冬多少の遲速はおはせど今日此頃は午前五時三十分といふに御起床あり夜は大抵十時乃至十一時に御寢所に入らせらる、御食事は

朝は紅茶に麵麭

晝は洋食夕は日本食を召さるゝを常とし給へり、每日午前十時には御學問所に出御あらせられ內外萬機の國務を御總攬遊ばさる、御學問所は極めて御質素にして玉座の御前に簡素なる御卓子一個備へあるのみにて何物も置き給はず、此の御學問所は專ら國務總攬の所なれど亦時としては拜謁の御場所にも充てさせ給ふ、即ち各大臣の如き日常職務を帶びて參內する人々は大抵此御學問所に於て

拜謁を許さるゝ

を常とす、國務多端の場合には二時間每に御休息遊ばさるゝ御習慣にて御休息の御間は御學問所續きの二階建の御室なりとか、斯くて國務御統裁は正午に御打切りとなさるゝを例とし給へど時には午後に亙らせらるゝ事もあり、其の際には御午餐後再び御學問所に出御あらせらるゝか又は大奧の御殿に於て御裁可を濟まし給ふ事もあり、午後二時よりは雨天又は御差支のなき限り

吹上御苑馬場に

於て御熱心なる御乘馬の御運動あらせられ四時三十分頃還御相成り御入浴後御夕餐を召させ給ふ、夜は午前中に御見殘しの新聞を御覽遊ばされ又漢詩和歌などをものさせ給ふ、御慰としては將棋、玉突等にて近は最も御巧妙に渡らせらるも最近は容易に左る遊戲を催し給はず漢詩和歌にいたく御熱心なるやに承はる、每土曜日の午後は東宮、二皇子、三殿下の參內あらせらるゝ事殆んど御規則の如く時に

御三方を御伴は

せられ吹上御苑に御散策を試みさせ給ふ、雨天の折には御殿內に於て御三方の過去一週間の御物語りを御聽聞あらせらる御三方中東宮殿下には既に御乘馬の御稽古も積ませ給へば時に父皇陛下と共に轡を並べさせられ御乘馬に半日を暮らさせ給ふ事もあり陛下の御座所には世界地圖の大軸を掛けさせられ歐洲戰局の如何を朝夕眺めさせ給ひ外務省參謀本部の御報告と相照らして戰局の推移を御觀望あらせらると拜承す(東京支局)

朝鮮の古城郭(三)
八木奘三郎

(四)歷代城郭の變遷(承前)

(乙)三國時代の城郭(其三) 高句麗は三國中の最舊國なり、故に城郭の如きも羅濟兩國に比すれば寧ろ早くより築造し居たることを認めざるを得ず。然れども之を平壤遷都以後より算すれば、其年代稍や二國より後れたるが如し、之れ本編に於て同國の分を最後に置きし所以なり、去れども順序上洞溝時代の築城を論ずる必要あれば、以下少しく其點を記述す可し

三國の起源は今日東洋史家の說を聞くに舊來の臆年より數百年の後に在りと云へり、去れば其記紀論の大要を知る必要あれども、本篇の目的は自づから他に在るを以て先づ右を略して城郭の事柄のみを曰ん、而して三國史記に見ゑたる高句麗の都城、丸都及び國內の二箇所は世間已に說明せりと思へる人多からんも、其實此地點は古來和漢、朝鮮等の學者が推理と實地との上より論爭せるにも拘はらず、未だ確定し得ざるものなり、勿論國內城は今の洞溝ならんと云へる人多しと雖も、其丸都に至ては平地說と丘陵說と二樣の別あり、隨て其間に距離の差違を示せり、又丸都に就ては此洞溝の上流に當つる人と、其下流に見る人と、其國內、丸都同一說を立つる人と種々の別あり、故に右の可否を決することあるにあらざれば能はざるは今後餘程正確なる新證據の發見するまでは

り、而も是等の論爭地は皆な高句麗時代の古墳存在せるが上に、又古城郭も遺れるに依り、其歷史事實との一致點に照して、當時の居住地と見ることは動かざる可く、又其城郭を論ずるは大に興味あり、必要ありと謂はざるを得ず。故に予は丸都、國內二城地選定の論外に立て、今日彼の地方に遺存する城郭が果して高句麗時代のものなりや否やを批判せんと欲す、之れ考古學上の立場より見て尤も必要の點なればなり。今日丸都城と云ひ、國內城と稱する地點は不明なりとするも、彼の洞溝の平地及び丘陵上に存する古城郭又は其上流に遺留する城郭等に就て所謂學者連の實見談を聞くに、右は凡て石築にして土城にあらずと云へり、此高句麗初期と認定せらるゝ城郭類が夙に石築なりしならんには實に城郭沿革史上の新レコードとも稱す可く、又斯學上一の重大問題に相當すと謂ふを得可し。去れば予は從來の說者が、果して當時の築造に違なしとの確證を握り居るや否や、又之を充分に解明し得るや否や、予は此點を疑問とすれども、過去の說は今日其不可を氣附き居るやも圖られず、故に一々他人の說を批評することを避けて別に予の所見を記述す可し。

祝佳節

○菊晴れ幕の街連ろゝ　虎耳
○生日菊又の足日菊を控ねて　鳥堂
○菊のんびりと酌むかわらけ　黄丘
○思ふさま息吸ふて菊は立つ　披柳
○此の白菊盛り水添ねし　句平
○且より大平まひらき菊に　浮碧樓

日報詩壇

○青丘游草 京城雜詠第一　渡部桃蹊

南山有雨北山晴。一日炎涼幾變更。也似世情多反覆。漢城天氣不分明。
評曰 天意人情反覆無常。感慨不盡。

景福宮
荒路落涼四望同。堪憐禁苑半成叢。階敗砌無人掃。頭白烏啼古帝宮。
評曰 哀惋之至

京城客次邂逅佐藤半農同飲其旅館天眞樓酒間率賦
客窓把臂亦前因。淺酌低吟情倍親。今夜殊欣筵席好。樓名眞箇養天眞。
評曰 天眞二字用得佳

箕子廟書感
舉國偉功千古傳。可憐王氣漠然遷。于今祠廟餘松柏。[illegible]姓殷勤祭祀虔。
評曰 即意深刻

釜山晚望
海門無浪夕陽閑。葉葉風帆相趁還。天末遙青一髮。依稀認得對州山。
評曰 清麗如畫

[illegible] 浦 [illegible]
[illegible]施旋に依り昨廿八日午後一時より府廳樓上に官民有志會合し長節及び立太子式奉祝方法[illegible]決したり
◎仁川の清潔法施行 仁川警察署に ては四日市に於けるペスト益々猖獗[illegible] ▲[illegible] 濱町、宮町、新町、寺町▲八日 山根町、龍岡町 龍里內里、外里、山根町▲九日 栗木里、花町、萬石町、新花木 [illegible]桃山町[illegible]▲十日 [illegible]
[illegible]なりと詐り本町の森善太郎方より白米一升を詐取し同日石井米太郎方に於て活[illegible]入場券二等二十枚價
[illegible]音羽町生れの酒井[illegible](二六)が京城[illegible]所より三百餘品の金品を窃取して本町署に檢擧されたることは既報せし
◎又も棄て兒 京城水下町[illegible]生林昌洙方の門內に二十七日午後八

本紙定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金六拾錢 郵税一ヶ月金拾五錢 [illegible]
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城日報社 京城太平通一丁目 合資會社
電話 [illegible]

十一月號 定價十八錢 郵税一錢五厘
名犬物語 阿武天風
朝鮮滿洲横行記
成城中學の誇り
百萬圓の奪り損ね
獨逸潜航艇に撃沈せられて
大冒險雪中の富士登山
金牌懸賞 當選披露及新課題
渡職人旅西行 小川金之助
皮肉傑作集(漫畫)
破邪顯正 黄金の壺
護謨林の冒險
冒險世界
東京本町 博文館 振替東京二〇番

學生 十一月號 立太子禮奉祝號 定價金二十錢 郵税共六錢
立太子禮と日本 大町桂月
史上の皇太子
世界各國の皇太子
立太子禮畫報
東宮の御平生
重要普通讀物
英軍大火焔車 新案懸賞募集
東京神田 富山房 振替五〇一

式辭及演說 文學士根來秘書先生 法學士山口天來先生 監輯 四六版五百頁 裝釘高雅
壹特 千價 部提 限供 定價壹圓三十錢 特價金壹圓
東京神田區 中央書房

日韓書房 新版報告
刀太雄著 マドロスの悲哀
遠藤吉三郎著 西洋中毒
西島良爾著 新編支那語教程
長塚節編 土
泉鏡花著 ゆかり文庫
京城本町二丁目

例解詳說 英文典新釋 南日恒太郎先生閱 清水起正先生著 改訂十版
京城 大阪屋號

●日支交渉案と奉天有志

日支交渉案の警察權委任及び顧問傭聘に就き奉天民間有志の反對甚だしく二十九日省議會に請願し連名の上政府に對し讓歩する勿れと發電せり（奉天特電）

●段總理留任勸告

段總理辭職說に對し奉天當局並に民間有志より留任勸告方を發電せり（奉天特電）

●總統徐を招く 内閣組織協議說

黎大總統は茲に河南に使者を遣はし徐世昌氏を訪問せしめ徐の北上を促せり是れ内閣組織に關する協議の爲めなりとの說あり（北京電報）

●呉氏總長就任か

呉廷芳氏は外交總長就任を承諾せりと（北京電報）

●中銀取付不熄

天津中佛銀行の取付今猶熄まず（北京電報）

●日露銀行設置内定

日露間の親善は益々濃厚となり貿易事業亦著しく發展せるより玆に相互貿易業者の便宜を圖る爲め兩國協同の金融機關を組織する必要を生じ露國々立銀行一等書記官シユンコフ氏は一週間前來朝築地精養軒に投宿し我が當局と頻繁に往復し氏の目的の下に詳細なる研究を重ね且其の組織に關する内議を進めつゝありしが愈々日露銀行なるものを設置する事に内定し不日出發歸國の上正式に手續を遂げ直ちに著手の筈なるが同銀行は本店を露都に置き東京其他數個所に支店を置く計畫なりと云ふ（東京特電）

●觀兵式と夜會

三十一日　聖上陛下には天長節祝日に付午前八時宮城御出門觀兵式場なる青山練兵場に行幸御親閲あらせらるべく尚寺内兼任外務大臣は官邸に於て内外貴紳二千餘名を招待し大夜會を催すべし（東京電報）

□勅使發遣

十一月一日午後二時宮中鳳凰の間に於て神宮、神武天皇山陵、明治天皇山陵へ立太子式奉告勅使發遣の儀を行はせらるゝに付三十日左の如く勅使任命ありたり各勅使は一日午後七時東京驛發西下する由（東京特電）

掌典子爵　河鰭公篤

立太子の禮を行はせらるゝに付奉幣の爲め勅使として伊勢神宮へ參向仰せ付けらる

掌典　久我通保

立太子の禮を行はせらるゝに付奉幣の爲め勅使として神武天皇山陵明治天皇山陵へ參向仰せ付らる

●歌御會始奉行

三十日左の如く任命ありたり（東京特電）

御歌所參候　西三條實義

同　遠山英一

大正六年歌御會始奉行被仰付（各通）

●豐受神宮勅使

來る十一月五日豐受神宮假殿遷御に付左の如く勅使參向仰せ付けられたり（東京特電）

掌典　宮地嚴夫

豐受大神宮假殿遷御に付勅使參向仰せ付けらる

●提督等の伏奏

三十日吉松第一艦隊司令長官以下各司令官加藤海相同伴宮中に參内拜謁仰せ付けられ當下の軍紀風紀等に關し委曲伏奏する所あり終りて陪食仰付けられたり（東京電報）

●地方長官參内

地方長官會議の爲め上京中なる各府縣知事は三十日午前十時後藤内相に帶同され參内　天皇陛下に拜謁仰せ付けられ終つて別殿に於て茶菓を賜はりたり（東京特電）

●總督赴任期

長谷川總督は卅日午前八時東京驛發列車にて小田原に赴き山縣公を訪問し種々要談を重ね正午々餐を共にし即日歸京したり尚總督は特別大演習を參觀し十一月下旬赴任の筈なりと（東京特電）

●李堈公首相訪問

立太子式に參列の爲め二十九日入京せる李堈公殿下には三十日午後二時寺内首相を永田町の官邸に訪問し上京の挨拶並に首相就任の祝詞を述べたり（東京特電）

●小松翰長免官

三十日左の如く辭令ありたり（東京特電）

朝鮮總督府中樞院書記官長兼外事課長　小松緑

依願免本官並兼官

●倉知副總裁東上

支那視察中なりし中日實業株式會社副總裁倉知鐵吉氏は三十日哈爾賓丸にて大連より門司着直ちに東上せり（門司特電）

●地方長官會議（第三日）

地方長官會議は引續き三十日午後一時より内務省に於て開會後藤内相より大要左の如き訓示演說ありたる後直に散會せり（東京特電）

（前略）立太子の禮は賢所大前に於て之を行はせられ神宮並に官國幣社に於ても亦必ず大中祭を行ふ斯の如き我國振古未曾有の盛儀には必ず肅々裡に崇肅敬虔の念を油起せしむべき神嚴なる式典の之に伴ふあり近者世界を通じて物質の進歩殊に著しく人をして其光輝に眩惑せしめ（此の間電文不明）以て一般の敬虔心を敦からしめ擧國一心皇室の繁榮國運の隆昌の爲め相率ゐて共に奮勵努力せん事を期す、凡そ地方行政の任にある者は深く責任の重きを思ひ苟も品位を損ずるが如き擧措あるべからず、最も公正にして毫も偏頗の處置なきを要す、徒に人心を迎へて一時を偉とするが如き其弊の及ぶ所以て人心を荼毒するに至るべし事務の整理改善は政治の要綱たり宜しく百事整然として亂れざるを期し粗漫放縱其の患を他日に及ぼすが如き最も之を戒むべし一事一務必ず其一部と全局との關係を省察して各部各課互に相乖離悖戾を避け各々權衡を得聯關を誤らざる事を努むべし局に當る者は深く思を玆に致すと共に其改善を圖り以て時運の進歩に後れしめざらん事を望む各位克く如上の趣旨を體し自重自任以て職に當り邦家永遠の福利の爲め其重責を盡されん事を要す

天長節祝日

▲總督官邸受賀

總督官邸にては例年の如く十月三十一日午前九時より天長節祝日受賀の儀あり、本年は總督不在の爲め山縣政務總監代つて賀を受くることゝなれるが、參邸者は恒例の通り總督府並に所屬官署の勅任官一同をはじめ總督府官房及び各部高等官三等以下並に判任官の各總代等、李王職主要職員、中樞院副議長、顧問、贊議、副贊議、朝鮮貴族等にして所屬官署の長官は各自の官署員より祝賀を受けて後ち總督官邸に參集其の旨を申報す、又た各國總領事、領事館員並に其の他の外國人は十時三十分參邸す

▲李王家御參賀

李王、李太王兩殿下及び李堈公殿下は三十一日午前十時總督官邸に成らせられ政務總監に對し天長節祝賀の御挨拶ありたる後直ちに御歸還相成る可し

▲所屬官署受賀

總督府所屬各官署の長官は三十一日午前八時三十分より官署員一同の天長節祝賀を受け同九時其の報告を齎らして總督官邸に參集の筈なり

▲龍山の觀兵式

三十一日午前九時より龍山練兵場に於て龍山駐屯歩兵第七十八聯隊野砲兵中隊騎兵中隊の觀兵式を擧行すべく池内歩兵大佐之れを指揮すべし

●政務總監招宴

山縣政務總監は十月三十一日午後六時より總督府各部長官、局長、所屬官署の長並に軍司令官、師團長參課長等軍の主なる人々、東拓總裁鮮銀代表者等四十七名を朝鮮ホテルに招待天長節祝賀の晩餐會を催す

●鮮銀券の膨脹 四千萬圓に達せん

朝鮮銀行券の最近一週間發行平均高は三千五百二十一萬圓の巨額に達し之れを既往に於て最も多額なりし昨年十二月の出殺時三千四百三十八萬圓に達せしに比するも尚ほ八十三萬圓の增加を示し鮮銀發行券の記錄を破りたるが之れ滿洲に於ける朝鮮銀行の活動に伴ふ增發並に滿洲支店新設により流通區域の擴大を來せる事更に朝鮮一般經濟界の膨脹並に朝鮮貿易か金銀を合算すれば出入略ぼ均衡を得る等諸多の理由に基くものなるが十一月下旬より十二月の米豆の内地移出期に入らば例年三四百萬圓の增發を見るを常とするに付本年十二月の最高發行高は恐らく四千萬圓に達すべしと

●内鮮農產品及其加工品の出入狀況（五）
朝鮮農業開發の根本研究

▲繰綿　打綿材料として主に支那より輸入す輸入額は年に依り差違あるも其の數量は三十萬斤乃至六十萬斤價額は六萬圓以上十四萬圓以内なり朝鮮に於て棉花の產出多きに拘らず支那棉の輸入を見るは朝鮮棉の品質優良にして比較的高價に移出の用に供せらるゝが爲めなり

▲馬尾毛　朝鮮人向笠子及び篩の製造材料として需要あり其の四分三を内地より四分一を支那より輸移入す然れども朝鮮人笠子の製造減少に伴ひ本品の輸移入は減少し大正四年の輸移入額は一萬四千斤二萬四千圓なり

▲小麥粉　小麥粉の輸移入は大體に於て米の需給關係及び米價の高低に左右せられ四十三年迄の輸移入額は百萬貫三十萬圓内外なりしが四十四年には二百萬貫六十五萬圓、大正元年には三百八萬貫百卅萬圓二年には五十萬貫二百萬圓に達せしが爾來漸減し三年には三百五萬貫四年には百七十萬貫となれり、輸移入先きは大正三年迄は殆ど全部米國なりしも戰亂の影響を受け米國品の供給離遠となり一方内地及び北滿洲に製粉業勃興したる爲め大正四年には米國、内地、滿洲各三分の一を領することゝなれり、惟ふに朝鮮に於ては小麥栽培の適地少からず優良なる品種を產出するの望確實なるものあり宜しく小麥の增殖改良を圖り製粉事業の發達を促して輸移入の防遏に備ふるを要す

▲日本酒　全部内地の仕出に係り其の品種は九割八歩迄は清酒にして他は濁酒、味淋の類なり、清酒移入は大正元年に於て三萬三千石九十六萬圓なりしが大正三年に至り稍減じ二萬八千八十八萬圓となしも大正四年には三萬二千石九十一萬圓に復歸せり、朝鮮に於ける清酒醸造業が逐年發達しつゝあるに拘らず尚ほ此の多額の移入を見るは朝鮮產清酒の品質猶内地優良品に及ばず中流以上の内地人向清酒は多く之を内地に仰ぐが爲めなり、然れども漸次移入減退の狀勢なるは勿論にして只大正四年に於ては内地にて前年御大典時の需要を見越し過剩の醸造を爲したる一時的の餘波を受けたるに他ならざるべし

▲支那酒　大正二年には五千四百二十萬圓に達したりしが四年には二千石七萬圓に下れり、主として賤價なる高梁酒にして滿洲產品大部分を占む、朝鮮に於て未だ本品醸造の確たる見込立たざるは遺憾なり

▲酒精　年に依り增減あるも大正二三年に於て八千石二十萬圓大正四年に於て四千四百石十二萬圓なり、大正三年迄は蘭領印度及び獨逸產品九割又は八割を占め内地品は二割に上らざりしも大正四年度には外國品の輸入困難なる爲め内地品八割に達し外國品は二割に過ぎざるに至れり

▲醬油　主として在住内地人の需要品なり明治四十四年には移入額八千石十五萬圓なりしが大正四年は五千石十二萬圓となれり、内地人人口年々遞增せるに拘らず却て移入減少を見るは尙ほ困難なるべきも年と共に減少すべきは疑を容れず

●内債賣出締切

朝鮮銀行にて二十七日より賣出し中なりし内債二千萬圓は三十日本支店を通じ締切りたりと

●大豆特定運賃 存續に決し汎く均霑

仁川商業會議所其他より鐵道局に對し撤廢運動を試みつゝありし大豆特定運賃問題に對する鐵道局側の意向は既報せしが其後鐵道院の回答も到達したれば鐵道局にては愈々該制度の存續並に之れを共益社一個人に限らず之れを汎く均霑せしむる事に決定而して其の一年の責任輸送噸數を一萬噸以上並に五千噸以上の二種に分つ事となり一萬噸以上は從來の共益社同樣の賃率五千噸以上は新賃率に依るべし

●間島鑛山採掘

間島天保山鑛山は之れ迄試掘時代に屬せしが本月下旬在吉林大興會社に對し野口領事より鑛山採掘に關して支那官憲より執照ありたる旨通牒ありたれば同山は愈よ大規模の下に採掘を開始すべく探鑛の結果は多數良好の鑛脈を發見せりといへば今後の成績は注目すべきものある可し

●地位等級審査進捗

臨時土地調査局の地位等級審査は南鮮方面は一部を除く外全部終了目下黃海、江原、平安南道方面に於て進行を圖りつゝあるが今後は漸次咸鏡南北兩道に及ぶべく嚴寒中も中止せず其の進捗を企圖し明年十月頃迄には全く其の終了を見るべし

●商船學校否認

近時地方新聞中明年度商船學校を元山に設置さるゝやう報ずる者あるも當局に於ては其の附設として鮮人水產講習所を開くべき所に依れば右は其計畫を立て豫算に計上せるも財政上の都合により削除されしに付明年其の實現を見難く又場所も元山にては適當ならずと

●東拓總裁張宴

石塚東拓總裁の新任披露宴は三十日午後六時より朝鮮ホテルに於て開かれ招待せられて出席せるは山縣政務總監外國領事團、京龍官民有力者百五十名餘興として筑前琵琶の彈奏あり七時大食堂を開き饗宴に入りデザートコースに於て石塚總裁より懇懃なる挨拶あり之に對し山縣政務總監來賓を代表して謝辭を述べ別室にて喫茶後八時半盛會裡に散會せり

●鮮銀券發行通報

十月二十二日より二十八日に至る一週間の朝鮮銀行券發行平均高は左の如し

正貨準備發行高	一一、九八二、九一六
保證準備發行高	二三、三二八、三三一
總發行高	三五、三一一、二四七

●秋山中將歸任

步兵第三十九旅團幹部演習觀戰の爲め沙里院方面へ出張中なりし秋山軍司令官は三十日午後七時二十分龍山著列車にて歸任せり

●大屋長官歸任

月末歸任のやう傳へられし大屋鐵道局長官は依然滯京中にて來月三日の立太子式後東京出發歸鮮の事となれり

●德富監督入京

本社監督德富猪一郎氏は三十日午後九時南大門驛著列車にて入京北門内補雲洞の自邸愛吾廬に入れり

人事消息

▲上野英明氏（明治興業重役）　入京中の處三十一日朝鎭京の豫定

▲慶松工學博士　同上

▲田邊氏（文學士）　三十日夜入京永樂町余光致舍へ入る

▲高橋茂久平氏（實業家）　三十日夜入京同上

▲安住時太郎氏（辯護士）　三十日朝大邱より歸京

▲中村時章氏（辯護士）　三十日夜歸京

▲金港永氏（開城實業家）　三十日夜發東上

▲宮田熊作氏（貿易商）　入京中の處卅日夜退京

▲佐伯武一氏（實業家）▲堀田正一氏（同）▲堀慎三郎氏（會社員）　同上

▲小宮文夫氏（實業家）　三十日夜入京朝鮮ホテルへ

▲ソイルド孃▲マクドウエル氏夫妻（以上米人）▲ホールド孃▲フロエード氏▲デフイス氏夫妻（以上英人）　同上

「南言北語」

景氣が好いと傳へられた羅馬尼軍が危殆になつて國都迄も危なくなつた▲米國の大統領選擧にはウヰルソン氏が頗る勢を盛返してヒユーズ氏が險呑になつたと云ふ▲一體今の世の中の事と云ふのは何うなるものか判つたものぢやない▲獨帝の列車に飛行機が爆彈を投げ付けた相なが此の樣な事も判つた話ぢやない▲聯合軍側から聞くと獨逸は最う食料にも軍需品にも大缺乏を來して早やもまいる樣に云つて居るが▲實際を見て來た人の話によると何でも其れ程には弱つて居ないと云ふ▲却て露國の方が食料の缺乏に困つて居ると云ふぢやないかこれだつて何が何やら判らぬ▲判らぬと云へば例の判らぬ張勳老人は頑固一點張かと思うと何うして却々の風流才子である▲と云へばオヤ／＼と目を剝く人もあらうがまあ聞給へ▲老人は若い頃から隨分風流の遊蹤が多く藝術方面の趣味もあり▲時には俳優を贔負にして一擲千金の豪遊を試みた事も珍らしくない▲六十三歳でありながら白髮などは一本も無く艶々しい辮髮を房々させて居る▲顏なども干乾ては居らず油ぎつて居る相な▲服裝などは頗る凝つたもので何時も流行の先驅を著けて自慢して居るとの事▲斯う判つて見れば其れ程イヤな老人でもないが但し政治上の意見と態式な處は矢ッ張り判らぬ

□定例休刊　明日は天長節祝日翌日に付定例休刊

●本日　朝鮮總督府公文附錄添附

社告

記者　別府八百吉

右は咸鏡北道清津會寧羅南方面視察の爲め出張致させ候間此段同地方愛讀者諸君に謹告仕候也

十月三十日　京城日報社

群山

▲虎疫終熄　群山は去月二十日虎疫初發患者を出してより續々疑似患者を併せて［illegible］復船内居住者にして罹病後上陸したる者にて遂に陸上居住者には一の罹病者を出さず本月五日を最後［illegible］して府民は防疫當事者の勤勞を感謝し居れり斯くの如くして群山の虎疫は既に終熄し今は他地方よりの病［illegible］日旺盛に向ひつゝありと

▲西濱埋築工事　群山商業會議所の事業と［illegible］り此に金五千五百圓にして償還方［illegible］

［illegible］校の職員等は二十八日午後一時より山手公園双樹亭下の運動場に於て秋季運動會を開催せり此日寒氣頓に加［illegible］て盛會を極めたり

▲原蠶所落成式　忠清南道原蠶種製造所は從來產業傳習所内に併置されありしが養蠶業の［illegible］稚蠶場の新築に相し七月より工事に著手し六十五日と二千六百餘圓の工費を要し九月三日に至り漸く竣工せし［illegible］次ぎ澁谷第一部長の工事報告小原道長官の告詞講習生の祝詞所長の答詞等ありて式を閉ぢ其より講習生の［illegible］

奉賀天長祝節

京城醫師會

（いろは順）

南山町一丁目（電一二三四番）内科小兒科　池田病院

櫻井町一丁目（電一二七一番）内科小兒科　池上醫院

本町三丁目（電二二七七番）耳鼻咽喉科　伊藤醫院

大和町一丁目（電一八三一）内科小兒科婦人病　今村醫院

本町一丁目（電二七二九番）内科胃腸病　石川醫院

南米倉町（電話二七六一番）　岩崎醫院

蓬萊町一丁目（電二八五二番）　今本醫院

大和町一丁目（電話九二八番）　爲春堂醫院

南山町二丁目（電一二二四番）　二元堂醫院

壽町（電話一二〇一番）　二宮產婦人科醫院

黃金町三丁目（電二四四三番）眼科小兒科内科　本田醫院

旭町一丁目（電二三四〇番）　中央婦人病院

南大門通五丁目（電二四五三）内科小兒科　小川醫院

明治町二丁目（電一〇五八番）　和田外科病院

旭町三丁目（電二四六二番）内科小兒科　若槻醫院

本町四丁目（電一五五六番）　金井眼科醫院

明治町二丁目（電一五〇四番）女醫　川崎朋子

本町二丁目（電話二二一六番）　高井醫院

壽町（電話九四五番）内科小兒科　多々見醫院

明治町二丁目（電話一九八番）　鶴田外科醫院

明治町二丁目（電三七八番）内科小兒科　中島醫院

大和町三丁目　中谷醫院

明治町二丁目（電一五四一番）耳鼻咽喉科　中村醫院

永樂町一丁目（電話六一三番）内科小兒科　村上病院

南米倉町（電話二六一三番）　内田醫院

黃金町三丁目（電一八九〇番）　宇野天壽堂醫院

南米倉町（電一九三四番）内科外科產婦人科　上野醫院

本町三丁目　内科小兒科　野口垣醫院

太平通一丁目（電一二二二番）　山口醫院

吉野町一丁目（電二八七七番）　矢崎生潔堂醫院

本町二丁目（電二八八〇番）内科小兒科　山田醫院

本町四丁目（電話七五五番）　松本診療院

南山町二丁目（電話六七五番）　松岡醫院

北米倉町（電話四八二番）　京城婦人病院

本町三丁目（電話七四二番）　京城醫院

本町二丁目（電話二六一三番）内科小兒科　芙蓉醫院

旭町一丁目（電話六九二番）内科小兒科　小林醫院

明治町二丁目（電二一〇四番）　江頭眼科醫院

長谷川町（電話七三七番）　安東醫院

黃金町三丁目（電二〇九四番）　安藤醫院

本町三丁目（電話四一九番）皮膚病花柳病　安部醫院

本町五丁目（電一一三三番）内科小兒科婦人病　淺川醫院

本町二丁目（電話二四番）　贊化病院

明治町二丁目（電一一七三番）皮膚病花柳病　佐藤病院

南大門通三丁目（電一六五九）胃腸　佐々木醫院

永樂町二丁目（電二六〇〇番）　酒井婦人病院

北米倉町（電話五九五番）　錦城醫院

永樂町二丁目（電二四七五番）　宮地醫院

旭町一丁目（電二七三六番）外科内科皮膚病花柳病　島崎醫院

旭町二丁目（電二四九八番）外科皮膚科　瀨戶醫院

本町一丁目（電一二三〇番）耳鼻咽喉科　杉本醫院

永樂町一丁目（電二一〇二番）皮膚病花柳病　須古醫院

[illegible]患者の續發し[illegible]患者は總て[illegible]船内居住者のみに止り倘々陸上鮮人部落にて罹病者を發見したるも之れ[illegible]日一名の患者をも發生せざるは全く群山警察署が全力を擧げて府廳當事者と協力熱心防疫に努めたる結果に[illegible]

[illegible]山米穀檢査所に於ける最近移出米[illegible]以て十一月に[illegible]況を聞くに一日平均三千叺に達し漸[illegible]札に附し遲くも本年末迄には工事[illegible]

[illegible]大正四年度に於て新築の計畫を立て本年度の豫算に計上され地を紫盤町[illegible]

‖けふのよきひはおほぎみのうまれたまひしよきひなり!!‖

◉歡の歌聲天に響けと、

祝ひ奉つる今日の佳き日の賑ひ

總督官邸の受賀の儀‖李王殿下參邸
朝鮮ホテルの政務總監祝賀晩餐會‖
各學校拜賀式‖京城神社祭典‖龍山の觀兵式‖紅葉に菊‖其他の催物

天長の佳節とて國を擧りて祝ぎまつる今日の日の京城は軒毎に飜る日の御旗も尊くぞ仰がるれ此日總督官邸に於ては午前九時より

□公式受賀の 儀あり李王殿下も御祝詞言上傳奏御依頼のため參邸され午后七半よりは朝鮮ホテルに於て山縣政務總監の祝賀晩餐會を催されるまた日出、南大門、鐘路、西大門、櫻井、元町、龍山等の市内各小學校に於ては何れも午前九時半から天長節の拜賀式を擧行し君が代の唱歌に御眞影を拜して約一時間の後式を了る京城中學校、東洋協會專門學校に於ても拜賀式を行ひ高等女學校、女子技藝學校にても同樣拜賀式を擧げる、南山の

□京城神社に ては午前十時から天長節の祭典執行玉串奉呈に次いで氏子總代の參拜を了び龍山練兵場にては午前九時から觀兵式の壯觀が見られるから郊外の楓葉や菊の見物かた〴〵樂しき一日をそれ〴〵の遊覽に暮すも一興であらう、楓葉は北門外

□石坡亭から 大和町老人亭、北漢山がよく、菊は昌德宮植物園の大花壇が觀物であらう猶ほ當日の催しものには

▲龍山の野球戰‖午前十時より龍山鐵道グラウンドにて倭城臺倶樂部對鐵道局の壯烈なる仕合ある筈

▲商銀遠足會‖は午前八時南大門驛發水原に遠足會を催す筈

▲京電庭球大會‖は龍山柳町京城電氣會社コートにて正午より開催

▲龍山擊劍大會‖龍山偕行社にて午後一時より開催、將校下士の猛烈なる仕合ある筈

▲寶生流鳳聲會‖午前九時より旭町白水にて祝賀大會を開催す

斯くぞ祝ぎ奉る

□東を拜みて ‖松永道長官夫人談‖

卅一日の菊佳節は滿都國旗に輝いて非常な賑はひを呈する別に邸では取立て丶申しあげる程に形式だつたお祝ひは致しませねどあやにかしこき大君のお生れ遊ばした佳き朝と思へば例年何んとなくときめく心地して子供等まで常になく早朝に起きいで如何にも嬉げなるを見るに就けてもとり分けおほどかにやすらけき御代のよき日が身にしみて有難く感せられます、六人の子供達が學校の遙拜式に登る前に家中一同廣間に集りひむがしの方を拜がみ式ばかりなれど心を籠めて遙拜を致し時には赤い御飯を炊くとかしてお祝ひの意味を表はします

□樂隊の萬歲樂 ‖趙重應子爵談‖

私の邸では先づ早朝に國旗を樹てますそうして皆なして泰平の御世知ろしめす大君の御生誕の日を祝ひ奉り午後から朝鮮樂隊を邸へ呼んで萬歲樂と云ふ古樂を奏させる筈であります朝鮮人は古來國王の誕生日を祝つた事のない國民である故に今まで天長節が何故に目出度い日であるかがよく心からまだ解されて居らぬ模樣であるから内地人始め朝鮮の主なる人々は心から此の日の有難く嬉しき佳節なる事を一般に了解せしめるやうにしなければなりませぬ

◉瀆職判決

三名は執行猶豫

三十日午後一時より大阪控訴院に於て瀆職事件判決言渡しあり増田、村井、根岸、關、高津の五名は一審同樣なりしも一審にて刑の執行猶豫なかりし白川、水間、板倉の三名は三年間執行猶豫の恩典に浴せり此の日出廷せし白川、水間の二名は喜色滿面に溢れたり(大阪特電)

◉一巡査五名の兇賊と格鬪す

二名を捕縛して重傷を負ふ

本年四月以來平安北道宜川、龜城、泰邊、北鎭等の各地に亙り强盜の被害續出し所轄官憲にては是れが檢擧に努め居れる内宜川警察署管内に於て二十九日前記各地を荒し廻りたる五人組の鮮人强盜團が徘徊し居れるを探知し同署の巡査朴基文は之れが逮捕に向ひたるに不敵なる賊等は拔刀して斬つて蒐りしも朴巡査は屈せず約一時間格鬪の後五名の内二名を捕縛して引致したり朴巡査は其際賊の爲めに頭部二箇所に深き骨膜に達する重傷を負ひたるが生命には多分別條なかるべしと賊は目下宜川警察署に於て嚴重取調中(宜川電報)

◉談合事件判決

言渡は九日

鐵道工事請負談合事件は引續き三十日午前十時より大邱覆審法院に於て開廷せるが判決言渡しは十一月九日と決定午後二時三十分閉廷せり詳細は次號に於て報道すべし

◉消防演習と運動會

蒸汽喞筒の操縱と操練

京畿道警務部主催京城府内消防隊の秋季演習は十一月五日午前十時より龍山練兵場にて開催のことは既報の通りなるが警務部本部、本町、龍山の各隊署にては係警、官憲兵所轄消防組員を引率して午前九時迄に消防器具を携へて一定の場所に整列警務部長の巡檢あり終つて京城、新衙龍山、麻浦、桃花洞及び各消防組の順序を以て一組宛車輛の運轉及び操練あり次いで常備消防隊の蒸汽喞筒附屬水管馬車の操縱演習等を行ひ之を以て演習操練を終り警務部長及び府尹より訓示あり斯くて點檢を終りたるが後茶餐を喫し午後は爆竹の合圖に依り運動會を開催し午後四時解散の筈なるが一般の觀覽隨意なりと

◆萬歲の聲

倭城臺を搖がさん

立太子式當日京城市民奉祝次第決定

來る十一月三日の立太子式當日に於ける京城府民一般の奉祝式は同日午前九時二十分を期し倭城臺廣場に參集し同九時三十分陛下が壺切の御劍を皇太子殿下に御授與相成る時間に於て金谷府尹の發聲にて萬歲を三唱し敬禮の後散會することに決定したり服裝は制服には大禮服同相當服、羽織袴等にして開會前一時間及萬歲三唱の折の二回に煙花數發を打揚ぐることゝなりたり

◉乘馬倶樂部の試乘大會

黄金町五丁目の京城馬術練習所にては巡回乘馬倶樂部員の一人なる小松綠氏の内地歸還に際し送別會の意味にて天長節の午後一時より試乘大會を開催し第一調馬索運動より第二常歩、馬上體操、速歩、各個運動等あり中にも多数婦人騎手の試乘もありて猶は森、牧野兩氏の輕乘あり其の他來賓騎乘二蹄跡運動、四騎運動、騎兵高等馬術等の面白きもの試みらるべく終りに野村師範の各種運動もありて非常なる盛會なるべしと其の順序次の如し

▲第一運動 調馬索運動 白上君、大島君、高井君、山口君、富谷君、後藤君、田中三君

▲第二運動 常步、馬上體操、速步 各個運動 堀盛君、森永君、池田君、林德君、牧山君、山枝君、和田君、山崎君、田尻君、熊丸君、東條君、小副川君、富谷夫人、鈴木忠君、水波君、廣津君、植松夫人、鴨田君、林田君、阪東君、滿谷君、今村君、森原君、野村夫人、中川君、齋藤君

▲第三運動 輕乘 森君、牧野助教

▲第四運動 速步、馬上體操、駈步 各個運動 飯塚君、中村君、伊藤融君、橋本君、麥角君、杉山君、佐瀨君、尾崎君、伊藤潤君、阪本君、注連内君、澤崎君、松田君、永野君、木村君、倉橋君、野々村君、山田君、渡邊君、小林君

▲第五運動 來賓騎乘

▲第六運動 二蹄跡運動、四騎運動 小松君、藤川君、堺谷君、二宮君、中野君、木岡君、田中君、植松君、林君、飯塚君、森崎君、鈴木君

▲第七運動 騎兵高等馬術

▲第八運動 各種運動 野村師範

◉在鄕軍人會奉祝

帝國在鄕軍人會龍山分會にては十一月三日立太子式奉祝の爲め午前八時半會員は一同龍山砲兵練兵場に整列し分會長の勅諭奉讀あり終つて軍務課長白水少將の講演あり午前九時半遙拜式擧行の上祝杯を擧ぐべしと

◆富士山と薔薇

和田英作氏作品展覽會

洋畫界の重鎭、和田英作氏の油畫富士山と薔薇の展覽會は卅一日から十一月の五日迄三越呉服店の三階で開かれる事になつた、作品は近頃のもの許り四十點程で孰れを見ても洗練された色彩に構圖に些の打ち所のない老巧なものである。中でも富士山は富士そのものが既々に平凡化された題物だけに變化に乏しく平凡なものもあるが、それでも『湖見湖』の『船津の富士』の如き、雄數の奔放な『雲を出たる富士』『夕雲』の如きは場中屈指のものであらう『師彼ろ丶姿』は唯一の大作でよく山氣を想はしめる。

薔薇の方は一體に華美な鮮麗な色彩のものが多く就中『燈下のばら』『卵色の敷物』は柔い燈を浴びた下に咲き崩るゝ薔の實體をよく現して居る。その他『白磁の鉢』『赤絵の壺』『白と桃色のばら』『更紗の敷もの』など孰れも看者を魅するに充分で殊に大家の作と點頭かるゝ稿を臨んで、油畫の前に陳列された深山な活花の爲めに肝腎の薔な充分に見る事の出來ないのは殘念であるし又花の薔の前へ眞物の花を並べたのも拙いと思つた。

◉合併相撲開場

東西合併大和撲は三十日好天氣の爲め大入を出し幕下十兩下迄取り進み午後三時打出したり其の成績は東京の勝星四十一個に對する大阪方は二

◉東西力士の意氣込み

合併相撲の景氣

東西合併相撲は愈々三十一日から開場される、信州上諏訪を打上げた太刀山、伊勢の濱(太刀山は未若)一行九州巡業中の西の海大錦一行、播州明石の稽古場を引上げた大錦改め朝日山以下の大阪方は何れも大阪に集まつて孰れも意氣軒昻初日の開くのを待つてゐる、大阪の各新聞によつて傳へられるところによると大阪方は非常な意氣込みで今度は如何にしても今春の

▲雪辱戰に成功 せねばならぬと盛んに稽古を勵んだが今回大阪方にあつて最も元氣と認められるのは御大の朝日山を筆頭に松の音、加古川、朝日松、千舟川、荒岩、時の矢、西の森、大泉、有若、大門、大達、宮木山、朝日潟など幕下の元氣なのは五十嵐、大島、海山、播摩洋、千年龍島ケ崎、富永山の面々で更に以上の幕内の中から將に目立つ元氣力士を拔いて見ると朝日山、朝日松、千舟川、加古川、時の矢、大泉、宮木山の七力士である、此の内で御大朝日山は此の春

▲固くなり過ぎて失敗した が今度は二段目力士の樣な氣で猛烈に打突つて見せると言ひ、當人自からが太刀山外二三を除く外はズツと調子を下ろしてかゝるつもり、廣言の樣ですが西の海には負無いといふ自信があり、大錦にも今春顏が合はず殘念だつたが、今度は十分奮鬪して見る心算です朝日松も四十一貫の巨軀か四十三貫になつたので梅ケ谷の全盛時代其處退けといふ調子

▲大きな身體が 前に支へられないのを苦にして頻りと出足に氣を注け出した、東京方では朝日山を目標としてゐる、そして元氣と言はれてる大阪方を呑んでかゝつて栃木山なんどは『盜人を見て繩を綯ふやうな稽古では幾等したつて駄目だ』など言つてゐる

▲初日取組

(大阪特電) 十一個にして人氣頗る盛なり

右東京方

荒玉	國見崎	男島	一港
上州山	朝日嶽	熊ケ嶽	駒ケ嶽
成瀨山	朝日山	常の花	敷島
藤見嶽	龜鶴山	大砲	響矢
逆鉾	龍ケ崎	十州山	紅葉川
初嵐	日出山	黑緘	朝山
宮城山	寒玉子	小常陸	朝の綠
小若島	大泉	大嵐	時の矢
九州山	源氏山	栃木山	大の川
朝日潟	西の森	宮木山	荒岩
綾川	宇都宮		對馬洋
大達	朝日松		千舟川
釋迦嶽	黑瀨川	伊勢濱	岩木山
加古川	松の音	二瀨川	朝日山
大錦	西の海		
有若	大門		

◉舟橋町の裝飾

舟橋町在住有志は二十九日午後七時より天長節祝日及び立太子式奉祝の件に付協議する處あり舟橋町入口電車通りに青竹の一大奉祝門を建設し七五繩を張り大國旗を交叉し戸々國旗を揭揚して奉祝の誠意を表することを決定し尙ほ飜に京城府指示を以て發表せられたる洞町總代及び評議員選任に付協議する處ありたり

◉送別碁會

遞回元中樞院書記官長小松綠氏辭任歸東につき十一月一日午後四時より送別臨時碁會を千代本に開催す

コレラ彙報

▲保菌者現はる 京城西界洞二八李銀玉(一八)は二十九日保菌者と判明し順化院へ收容せり

▲臨時檢菌所閉鎖 虎列刺豫防の爲め總監部構内に設けられたる臨時細菌檢査室は虎疫漸く終熄に近きたるを以て閉鎖し爾今從前の如く三清洞細菌室に於て事務を取扱ふ由

えんげい

◉慈善事業へ寄附 本紙三十日附夕刊三面所載『救はれたる少女の叔父より』なる記事中の藤田政一郎氏より本社に對し慈善團體へ寄附方を依頼し來れる金六圓三十二錢は三十日濟生院に送附し慈善事業費用中に寄附方取計ひ置たり

◉筑前琵琶秋季演奏會 關西琵琶評論朝鮮支社の主催に係る筑前琵琶秋季大演奏會は三十一日午後六時より[illegible]館に於て開催すべく出演者は東原旭扇師外八名なりと

◉本能寺(水標橋通) 二日午後二時夜間八時定期布教加島講師の法華經講義及び日蓮上人御傳記の副講あり

▲大正館 三十一日より新寫眞を差替へたりその重なるもの左の如し ▲實寫南米ウエルケ瀧▲泰西活劇怪病院全三巻六千呎▲滑稽驚くべき美術▲舊劇稲川忠兵衛▲新派悲劇畫家の妻

▲黄金館 三十一日より差替の特別寫眞其の主なるもの左の如し ▲滑稽タム君の素人探偵▲舊劇和泉屋治郎吉▲四巻▲第二黑い箱▲甲武信ケ嶽大學生の死

天長節と大提供
◉實錄梅川忠兵衛 三巻
新派悲劇 畫家の妻 四巻
文展に出品せんとする青年畫家の苦心、薄命に泣く畫家の妻、血も涙もなき惡漢毒婦の奸計、慘…酷…嘩
◉大活劇 怪病院 三巻
三十一日晝間より差替へ申候 大正館

京日案內
普通 一回前金一行三十錢 一番外六十錢
▲申込後中途揭載中止の節は料金返戻せず

▼古本と古樂器は此際特に高價買入 本町二丁目 電二五二七 ツツボヤ書店 427
▼妊婦產婦預り所(費用實費) 錦城醫院內產婆 宮良トシ 京城北米倉町電話五九五番 583
有給外交員及派遣員採用月收確實 希望者履歷書携帶本人來談あれ 櫻井町一の七三 日鮮圖書普及會 625
內職年中休無紙袋張日鮮人入用 菓子店雜貨店果樹園用紙袋製造販賣 京城明治町一丁目五三清寬事務所商店 626
◉金融 月收の御方へ極秘信用融通 便宜立替御報伺又御來談 大和町三ノ三二(柄澤前)起木屋 624
◉和服裁縫從弟入用 女子にして裁縫從事したき者數名至急入用 京城壽町一七 高野屋大橋 623
◉見習看護婦大至急入用 本人直接來院あれ 京城本町二丁目 京城醫院 622
◉寫眞○開業五周年紀念大割引の活動寫眞入場券進呈○天長節より 黄金町電話一四三四高等寫眞館 616
◉看護婦募集 外勤多忙免狀を有する者履歷書携帶午前中本人來談 南山町三電話一八一十宮林看護婦會 613
◉古本 高價買入 京城本町三丁目 東京堂書店 446
行商員募集 確實日收一圓以上 希望者は北米倉町吉岡商店へ 但保證金拾圓要 621
◉貸家 溫突付日本建五間半 官吏別莊的三坂通練兵場上 管理人 龍山印刷局先 畑中 606
古本なら野村 明治町筋通二六三六 買入誠實御報參上 野村書店 431
番外
入院隨意 京城明治町一丁目 小川家畜醫院 電話四二七番 627
礦物定量分拆 京城府太平通(朝鮮公論社左小路) 電話一三四四番 坂元分拆所 614
貸家 場所京城永樂町二丁目七番 日本建平家八疊四ッ六疊三ッ四疊半六ッ三疊二ッ 紳士住宅向 京城本町二 釘本商店 589
◉京城春川間 每日午前八時出發 京城春川間自動車賃金片道四圓 南大門通一丁目 廣橋自働車 主務 金正淵 電話二一九番 428
京城春川間乘合自働車 賃金片道四圓 京城發前八時 春川發前八時 京春自働車商會 支配人 松田壽男 電話武壹參八番 429
◉新學期 鮮語科 三ヶ月修業 各級補缺 入學許可 英語科 南大門通(漢城銀行前) 京城青年會 617
觀易 每日午前九時より十時 相人を限り依頼に應ず『見料隨意』 永樂町一ノ九 均陵庵 549
古着古道具類 不用品一切 右穢實に買受申候也 京城旭町一丁目 クズタニ商店(電話一八一二) 569

鑛山經營 重石買入 金石商會 ▲鑛物分拆並に鑛山測量製圖 電話一八九九番

新刊圖書御案內
書名 著者 定價
趣味の傳說 五十嵐力 一、二〇
人生の旅行 村上浪六 九五
校刻日本外史 賴襄子成 一、二〇
自修リーダー研究 正則英研會 九〇
彼等 キップリング作 平田禿木 五〇
英文典新釋 清水起正 九〇
ゆかり文庫 泉鏡花 一、五〇
印象派以彼 木下杢太郎 一、五〇
全譯名大物語 コナンドイル 九五
家事文庫 手芸 犬養一惠 一、五〇
ドストイエフスキイ 新城和一 一、三〇
株式投機之手引 伊藤美太郎 一、四〇
社會分裂の時代 中村孝也 一、三五
遊戲の實際 土屋耕一 一、七〇
中等教科英和新辭典 佐久間信恭 特九〇
朝鮮行政法要論 永野清 一、六〇
殖民原論 永井柳太郎 一、六〇
民法釋義物權の下 中島玉吉 二、八〇
日本債權法總論 鳩山秀夫 一、八〇
[illegible]松堂書店 京城本町二 電話一一六六番 振替京城二四五番

竹細工と糊
千代田袋 四ッ目豆かご 子供手提袋底籠 造花、挿花用牡丹籠 造花及果物平盛籠 美術竹細工各種
好評のヤマト糊 不易糊に優る數等寒暖のために氷結腐敗等の憂なく、紙自由清潔粘着力最も强緊官衙會社家庭用等には勿論袋物細工及造花用として最適當なり
京城明治町通 尾琴屋 電話一三五九番

不思議な當物 姓名、年齡、職業等算術應用にて當てる表及び解方を郵券二錢五枚送れば直に送附す 東京市京橋區南佐柄木町七番地 渡邊

新刊書御案內
書名 著者 定價
白秋小品 北原白秋 一、〇〇
ゆかり文庫 泉鏡花 一、五〇
人生の旅行 浪六 九五
イワン、イリイッチの死 トルストイ原著 七〇
選定便覽三輪對照曆 竹內師水 五五
奧塚園藝十二ヶ月 上巻 千葉胤一 八五
新式園藝寶典 第四 鈴木英次郎 六〇
大增補實用ペン習字帖 大阪屋號編 三〇
ペン數字練習帖 黑柳勲 一〇
中等教科英和新辭典 佐久間信恭 特九〇
練習用標準かるた 小倉百人一首 高橋雅山 六〇
大正六年度日誌色々 澤山著荷致候 自六五至一〇
森林土木工學全書第三巻 林道、橋梁及森林鐵道編 石丸文雄 四、五〇
通俗教養講話 全 足立栗園 一、〇〇
文藝叢書 印度文學史 矢島美盛 一、五〇
ドストイエフスキイ 新城和一 一、三〇
精神科學の基本問題 上野直昭 一、二〇
家事文庫 手芸 大妻一惠 一、五〇
北濱と兜町 島木 四〇
國民教育 兒法赤坊讀本 [illegible]
綿入訓話 大町桂月 五〇
文展十年 青木小一郎 九〇
京城本町 電六八四 二〇八六 振替京城二三七 大阪屋號書店

女鳩

渡邊默禪

「二四七」三日目

獵は翌日も續いた。源作は前日に倍した元氣で嚮導の役をつとめた。生駒も大野も隨行した。たゞ鳩子だけは氣のすゝまぬ樣子で、今日はゆつくり小舍で休まして下さいと言つた。子爵は昨日のこともあるので、それがよかろうと二三人の男を殘して娘を守らせることにした。

昨日の大收獲へ持つて來て、心配でならなかつた糧食が十分に到著したところから、急に勇氣づいた勢子どもは、大寒明の春の日射うらゝかに峯に輝く朝の九時から、夕まぐれにかけて、出谷川べりの大絶壁をあさり立て、薙ぎまはり打のめしたその銃先に斃れた獲物は親熊一頭、子熊二頭。それから青猪一頭、兎は無數といふ大獵であつた。

その晩から大野はどうしたか發熱して四肢が倦怠く、翌朝になつても起き得られなかつた。

子爵はもう是だけで滿足すればよかつたのである。けれども悠う調子づいて來ては、誰でもばつたりと止める譯にはいかぬものと見ゑ、第三日も續いて出獵を試み、今度は絶壁を廻つて奥の谷まで深入する計畫を立てた。

鳩子は其朝父に向つて言つた。

『お父さま、もう好い加減に遊ばしてお引揚げなさいましたら如何でございます。大分日數も經つて居りますし、それに收獲も十二分だと思ひますから』

と、子爵は意外らしい顏をした。

『莫迦なことを言へ、是から面白くなる所なんぢやないか。收獲が十分ぢやと言ふけれど、我輩の獵は收獲の豊富を目的とするんぢやない。面白ければよいのぢや。どうせ今頃東京に戻つたところで、他の小併連のやうに千葉や埼玉あたりへ畑荒しにも出られんぢやないか。まア五六日は遊ぶさ。どうぢや、今日はお前も出かけて見ぢやあ。もう疲勞も脱けた時分ぢやらうが』。

『いゝえ、私は御免を蒙ります』。

『何故ぢや』。

『獵といふものが急に嫌ひになりました。私し最う銃に印導を渡さうかと思つてゐますの』。

『妙なことを言ふ。どうして爾う殺急に獵が……はゝア、一昨日の一件から臆病神にとりつかれたんぢやな。アハヽヽ。確乎せんか、弱蟲奴』。

『いゝえ、爾うではございません。私し無意味に動物を殺すのが、何ですか罪悪のやうに思はれてならないんです。僧侶さんじみたことを言ふやうですけれども、實際無意味なんですものね、お父さま。娯樂の目的で他の動物の生存權を侵すのは……第一不道德ですわ。だんだんと動物の種族が絶えて來るのは、人間が慘い殺戮を加へるからだと、學者は爾う言つて嘆いてゐるでせう』。

『何ぢや。今頃になつてくだらん理窟をいふ。はゝア、お前里心がついたんぢやね。ホームシックに罹つたんぢやらう。そんなに東京が戀しくなつては困るのう』。

『いゝえ、爾うぢやございませんわ。とにかくお父さま。今日はお止し遊ばして下さいな。私お出し申したくないんですのよ、何となく……』

『又たそんな分らんことを言ふ。最う皆ながあゝして支度をして待つてゐるのに、理由もなく中止ができるか。可厭なら可厭でよい。留守をして居れツ。併し困つたのう。大野君に寢られては……肝心の利役者がないと獵も榮ゑんがのう。大野君、今日は遺憾ぢやが野戰病院ぢや。まア折角大事にしてのう。早く癒つてくれんぢや不可んぞ。』

子爵は爾う言つて勇しく小舍を出發した。あゝその前途に？その前途こそ!?

「大田湖畔吟社句集」

紅葉

橋渡す千丈溪の紅葉哉 江月
蔦紅葉小高き岡の馬頭尊 西水
句行脚の紅葉迎りて嵯峨の奥 洞津
傾ける志士の墳墓や散紅葉 青峰
峠越ゆる祠に道へる蔦紅葉 不醉
楓紅葉障道行くや甲寺 淡水
拍手や樋渴に散りし池紅葉 雅溪
皷うつ瀧の音遠し紅葉山 濟月
斧要の糊張板や散紅葉 松年
子持鹿の巫女に懷く紅葉宮 同
孤島紅葉に國祭起り船の樂 商窟
鳥出づる氣に繞のむら紅葉 秋骨
御針子の後掛草履や紅葉狩 待宵
楓紅葉見越す湖上や晝の月 半雨
枝折れば小鹿の來る紅葉谷 句三笑
二股川の檐にかゝる紅葉哉 春女
紅葉於花尾らく孔雀雌を得し 月波
糸細き鳴和の瀧や蔦紅葉 風骨
同

天長佳節奉祝發句(燕風會)

貧仙居一雜宗匠選

天長の地久し菊の大八洲 羨洲 洲月
菁物の市場は錦の誇りかな 京城 庭月
毎三味笆瓶に雨な聰く夜哉 平澤 不岐
須磨の夜淡路戀しく啼千鳥 京城 大洋
月鳥に殘る灯や朔ちさり 羅南 一步
落人の心搜るやむしの聲 京城 蹄門
天窓の皓雲深し鹿のこゑ 同 不誠
虛無僧の笠取れけり門芭蕉 同 石骨
膝畸の戀や配所の虫の聲 同 其山
山寺の仁王も寂るや秋の風 同 庭月

十 内

凱姿や酒の香のする渡し守 同 吉雲
世茶屋の窓さし覗く紅葉哉 同 菊坡子
仁政の惠に重き稲穗かな 同 蹄蘿
猿の子の雨盔かるや柿紅葉 同 庭月
古稀のたか縦みけり秋の風 同 考古
御幸まつ色や高雄の薄紅葉 同 京眞屋
壁に耳なくて氣安し鹿の宿 同 不誠
虫賞りや都へ秋を持ち運ひ 周防 友月
二千石辭した果報や菊の主 京城 蹄門
日は佳節祝ひ添るや菊一首 洪州 洲月

追 加

高麗人も佳節祝ふや人蔘酒 一雅
城壁の虫も李朝を語るかな 同

二十内

共角堂八世貧胥齊機一宗匠選

晴れ渡る天長節の日和かな 京城 玄對
せせらきや巌を包む蔦紅葉 同 禾村
我俳に吹くも興あり垣の菊 同 玄對
朝月や松原ゆけは露時雨 開城 天外
一枝は瓶にさし出て初紅葉 京城 考古
山茶花や日のあたゝかき蔵の家 同 不誠
聰講に一座默して虫のこゑ 同 京眞屋
山姫の秋を飾ふ紅葉かな 平澤 翠堂
栗の戸や錐を咎めても餅の味 京城 不誠
山茶花やもの數音にぬ寺男 同 考古

十 内

日は佳節祝き奉る菊一首 洪州 洲月
山茶花や日和を誇る棚細工 上野 清堂
蔦紅葉松は千古のみさり哉 京城 鶴蘿
山莊の窓さし覗く紅葉かな 同 菊坡子
大君に棒る菊の薫りかな 開城 天外
猿の子の雨盔かるや柿紅葉 京城 庭月
山茶花や雨をうけし家構へ 同 蹄門
(人)朗かに天長節の唱歌かな 同 孟嗣
(地)夕月や淡盃戀しとなく千鳥 同 大洋
(天)菊の香や高麗のあら野も日本晴 同 京眞屋

追 加

菊の銘金冠りは露とけれ 讚 一
鶏鳴ふや菊一朶なき小春晴 同

新刊紹介

▲松乃葉(朝鮮總督府觀象官太田秀穗著)『運、鈍、根の説』『處世の要道』『人は時として境遇を超越するの要あり』の三編を收む青年子弟が精神修養に資すると共に處世上の教訓とすべき道を訓へたるものにして著者自費にて出版し廣く知友の間に頒てり(非賣品京城諸與洞一〇太田秀穗)

▲『少女』『少年』十一月號 安全第一の子供の讀物として定評ある東京時事新報社發行の二大雜誌『少年』『少女』十一月號は立太子禮奉祝號として內容外觀共に盛裝を凝し特に口繪として文部省選定奉祝歌の美麗なる色刷を添付して讀者に頒つ中にも『少年』には皇太子殿下御誕生より最近の御寫影を始め『御慶事』『御劇の』二頁大の彩畫にして久留島武彦氏の『花嫁』大佐の『…』數學奇談『九の戲れ』吉田博士の『…』外野球小說偵小說『疑問の…』『公卿太刀』等を以て充され『少女』には口繪小說等よろこびの…少女に讀む(定價各十六錢郵税一錢五厘)

▲南滿洲鐵道株式會社産業試驗場要覽 本年八月の編纂に係り主として大正三四年度に於ける公主嶺本場及熊岳城分場の各種農作物並に畜産に關する試驗の結果を數字を基礎として比較し其の成績を詳細に且つ一目瞭然たらしめたるものにして尚ほ同試驗場の沿革目的諸規程等も添し以て同試驗場の施行に係る事業の一般を知るに便せり(定價不詳)

▲宣川同窓會報 平安北道宣川公立普通學校明治四十三年第一回以來の卒業生を中心として組織せる同窓會々報なるが同校生徒の卒業後に於ける社會的地位、活動的方面を知ると共に母校教職員間との掬すべき温情を覗ふべし(非賣品平安北道宣川公立普通學校)

▲理學界(十月號) 果實の呼吸作用に對する温度の影響、標準化石に就て、動物質の構造植物の代謝機能とエチレンの影響、結晶光學の話其他十數の記事悉く斯界の興味ある研究を載す(二十五錢東京市神田區裏神保町六光風館)

▲建築之日本(十月號) 曩に懸賞を以て募集せる住宅設計圖を發表し新たに圖案を募集せり記事には記念物の建築に就て、小さな別莊、家賃十三圓の貸家、造營構造其他如例く尚ほ建築材料時價表を附錄す(二十五錢東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町五八八共社)

▲經濟資料(十月號) 從來南滿洲鐵道株式會社東亞經濟調査局に於て編纂し一部人士間に配本し居りしものを今回販賣することゝなせるものにして每號各般經濟事項を調査研究し所論頗る穩健也本號には獨逸製鐵シンヂゲート論、露西亞の交通、伯剌西爾經濟事情の三編を載す(二十五錢東京市麹町區下二番町六八外交時報社出版部)

▲ナショナル(十月號) 本號は主として鮮滿及蒙滿に於ける代表的會社工場等を紹介せり社說『我植民地の現狀に鑑して識者に質す』を卷首に鮮滿地方に關するものには朝鮮の現勢と其施政、鎭南浦久原製錬所實査記、改革の機運熟せる東拓、滿蒙…民の實力を擧げたる朝鮮銀行、東亞煙草株式會社、滿洲の現況と其前途如何、南滿に活躍せる大倉組の事業、滿洲水産株式會社の現況、鴨綠江採木公司等を收む其他如例(五十錢東京市赤坂區溜池町三二共社)

東京期米特電

況

三十日出來値 朝鮮銀行

東京株式 一八〇

三十日現在高 朝鮮米 內地米 深川在米 一三九四〇 新銀米八六、七九五 一一〇七、〇五五

廿八日午後一時より…

…に關し打合會を開きたり▲木浦電燈總會 木浦電燈會社は既報の通り…

…居るを以て萬一の侵入を慮り防として左の日割を以て來…日より…滿遊…施行すべしと

◎昨秋 平壤壽町の板場職鄭福根…四圓三等二十枚價値のものを窃取し何れも格安にて他に賣付けたるを同人は新町遊廓第一樓にて窃取したる四十圓の小切手を以て遊興中の所を平壤署に採知し去る廿三日捕はる

…里、花平里▲十一日 松峴里、松林里▲十二日 …

…時頃生後十數日位の嬰兒を遺棄したるものあり本町警察署にて檢視をなせり

…寢込みを逮捕され府に川浪淳平と氏…

●天氣豫報追報

花王石鹸

告白

花王石鹸の品質が高價なる舶來石鹸に比して毫も遜色が無いとは豫て帝國陸海軍、帝國大學、赤十字病院等に於て嚴密なる實驗に依り採用せらるゝ事實に見て明瞭なとですが其の價格が舶來品のタツタ十分一位に止まるといふ譯は、左の五に基因するものです。

一、香料は内國産を用ひ裝飾に贅費を掛ぬこと
一、我が國一般の生産費が外國より廉いこと
一、特に舶來品に比し關税及び運賃を要せぬこと
一、産額が多い爲原料を一時に多く仕入れるので原價が廉くなること
一、副業として石鹸の廢液より多量のグリセリンを採收して販賣する爲め從つて石鹸の價格を輕減し得ること
尤もグリセリンは我が軍隊用にも供せらるゝ貴重品なるが産額少量なる工場に於ては此副業は經濟上不可能のとです

右の理由に依つて廉價の良品となり産額が增大すればする程生産費に餘裕を生じ、原料の精選と品質の改善に努力して逐次循環的の進歩を見るのですから花王石鹸の御使用は畢竟需用者の利益なることを御承知の上、多々益々御愛用あらんことを懇望致します。

花王石鹸製造元 東京馬喰町 長瀨商會

電話浪花園三番、六番、二〇〇二番